手引き書：ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とプログラム

プラン・インターナショナル
著者：Jenn Donville

中央スラウェシ州、Afriyanaの新しい仮設教室（インドネシア）。

目次

まえがき 5
手引書の目的と対象者 5
なぜ必要か 5

1. はじめに 6
ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とプログラムとは何か 6
1.2 プランの方針とアプローチの中で、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とプログラムはどのように位置づけられているか 7
ジェンダー・トランスフォーマティブな活動を支える6つの要素 9
プランのIQE（包摂的で質の高い教育）概説 9

2. ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とプログラムに対するプランのアプローチ 12
緊急時の教育 14
ニーズと機会の理解：ジェンダー、包摂、年齢分析 15
2.1 個人レベル 16
個々の女の子と男の子のエンゲージメント 16
ピアサポートとネットワークの強化 20
資源と現物支援の提供 20
2.2 家族・コミュニティレベル 22
保護者のエンゲージメント 22
コミュニティのエンゲージメント 25
2.3 学校レベル 27
学校協治 27
学校環境 28
学校インフラ 29
SOGIESCに基づく排除は教育においてどんな形で表れるか 30
2.4 国レベル 32
政策の影響力とセクター計画 32
質の高い教師陣 33
教育・学習資源 35
代替教育の提供 36
2.5 国際レベル 39
世界的・地域的影響力と提言活動 39

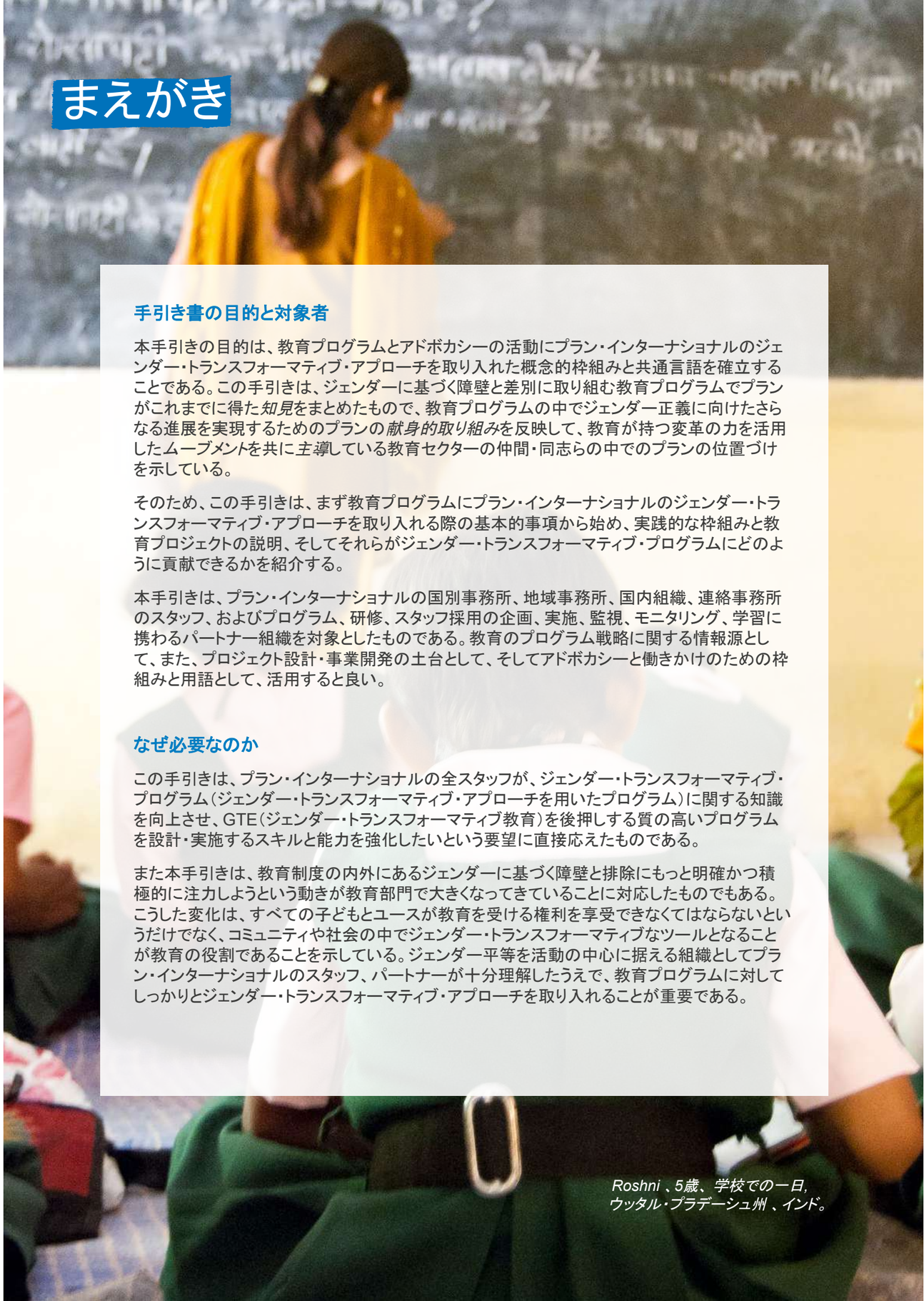
3. ジェンダー・トランスフォーマティブ教育プログラムの進捗と評価 42
プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー（プランが2020年に新しく導入した評価ツール） 42
包摂的で質の高い教育のためのプランのM&E（モニタリング・評価）の枠組み 43

付録1. Gender-related elements on the M&E Results Framework for Inclusive Quality Education (IQE) 44

付録2. Photo guide 50

略語一覧

ADM	代替提供方法
AEP	代替教育プログラム
ALP	加速学習プログラム
CAY	子どもとユース
CEDAW	女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約
CRC	子どもの権利条約
CRPD	障害者の権利に関する条約
ECW	「教育を後回しにはできない」（緊急事態下の教育に力を入れるための新たな教育基金）
EFA	万人のための教育
EiE	緊急時の教育
ESP	教育セクター計画
GBV	ジェンダーに基づく暴力
GE	ジェンダー平等
GEIA	ジェンダー平等と包摂の分析
GPE	教育のためのグローバル・パートナーシップ
GRESP	ジェンダーの視点に立った教育セクター計画
GTE	ジェンダー・トランスフォーマティブ教育
INEE	緊急事態下の教育のための機関間ネットワーク
IQE	包摂的で質の高い教育
LGBTQI+	レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスセクシュアル・クィア・インターセックス・プラス
M&E	モニタリングと評価
MHM	月経衛生管理
MISOSA	修正された校内取り組み
MoE	教育省
OHSP	オープン・ハイスクール・プログラム
PTA	親と教師の会
RAISE	スキル向上と教育による真の資産
SDG	持続可能な開発目標
SMC	学校運営委員会
SRH	性と生殖に関する健康
SRHR	性と生殖に関する健康と権利
SRGBV	学校に関連したジェンダーに基づく暴力
STEM	科学、技術、工学、数学
UNGEI	国連女子教育イニシアティブ
WASH	水衛生と健康



まえがき

手引き書の目的と対象者

本手引きの目的は、教育プログラムとアドボカシーの活動にプラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れた概念的枠組みと共通言語を確立することである。この手引きは、ジェンダーに基づく障壁と差別に取り組む教育プログラムでプランがこれまでに得た*知見*をまとめたもので、教育プログラムの中でジェンダー正義に向けたさらなる進展を実現するためのプランの*献身的取り組み*を反映して、教育が持つ変革の力を活用した*ムーブメント*を共に*主導*している教育セクターの仲間・同志らの中でのプランの位置づけを示している。

そのため、この手引きは、まず教育プログラムにプラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れる際の基本的事項から始め、実践的な枠組みと教育プロジェクトの説明、そしてそれらがジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムにどのように貢献できるかを紹介する。

本手引きは、プラン・インターナショナルの国別事務所、地域事務所、国内組織、連絡事務所のスタッフ、およびプログラム、研修、スタッフ採用の企画、実施、監視、モニタリング、学習に携わるパートナー組織を対象としたものである。教育のプログラム戦略に関する情報源として、また、プロジェクト設計・事業開発の土台として、そしてアドボカシーと働きかけのための枠組みと用語として、活用すると良い。

なぜ必要なのか

この手引きは、プラン・インターナショナルの全スタッフが、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラム（ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを用いたプログラム）に関する知識を向上させ、GTE（ジェンダー・トランスフォーマティブ教育）を後押しする質の高いプログラムを設計・実施するスキルと能力を強化したいという要望に直接応えたものである。

また本手引きは、教育制度の内外にあるジェンダーに基づく障壁と排除にもっと明確かつ積極的に注力しようという動きが教育部門で大きくなってきていることに対応したものでもある。こうした変化は、すべての子どもとユースが教育を受ける権利を享受できなくてはならないというだけでなく、コミュニティや社会の中でジェンダー・トランスフォーマティブなツールとなることが教育の役割であることを示している。ジェンダー平等を活動の中心に据える組織としてプラン・インターナショナルのスタッフ、パートナーが十分理解したうえで、教育プログラムに対してしっかりとジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れることが重要である。

Roshni 、5歳、 学校での一日,
ウッタル・プラデーシュ州 、インド。

1. はじめに

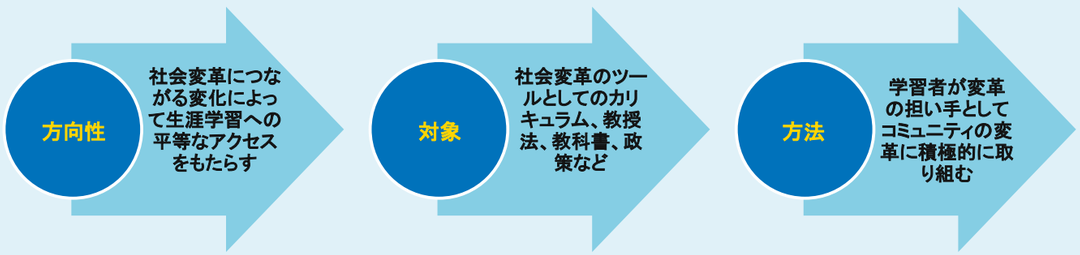
1.1 ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とプログラムとは何か

GTEは、本来教育は前向きな社会変化とジェンダー正義を達成する力になりうるという認識に立つものだ。教育には、現在まで長年続いてきたジェンダー規範の変革に貢献し、女性と女の子のための社会変革に向けた前向きな社会的・政治的変化を促進し、ジェンダーの違いによる力の不平等に対処できる可能性がある。

GTE：教育システムや生徒の学習経験におけるジェンダー格差を認めて対応するだけにとどまらず、教育の力を最大限に活用して教育システム内外にある態度や慣習を変革し、あらゆる多様性を持つ女の子と男の子にとって、より広範にジェンダー正義の環境を育むことを目指す[1]。

こうした変革の可能性は、教育において、また教育を通じて、ジェンダーに基づく暴力(GBV)や早すぎる結婚の減少、GEや女性のリーダーシップの促進といった重要な社会的転換に向けた進展がなしうることを意味する。その実現のためには、教育システム、活動の担い手、資源は、GEと包摂を積極的に推進し、差別と闘い、あらゆる多様性の中で女の子の生徒のエンパワーメントと男の子の生徒のエンゲージメント（ジェンダー平等達成のために理解を深め、活動に参加し、自らと人々の意識・行動を変えていくこと）をすすめていかなくてはならない。「GTE」という用語は、具体的に*教育システムとサービス提供・提供者が持つ変革の可能性*を指す。

GTEプログラム：ジェンダーによる社会的・経済的障壁の*根底にある原因*の解決を目指すことで、あらゆる人々の教育へのアクセス(EFA)を促進・改善し、*教育システムとサービス提供が持つ変革の力*を強化し、不平等なジェンダー規範を変革するための*環境*を整えるために、さまざまなレベルで行われる。したがって、GTEプログラムとは、教育に対するさらなるジェンダー平等を、教育の*中*で、そして教育を*通し*て達成することを目指すものである。



1 言語、移動、宗教、民族、ジェンダー、セクシュアリティなどの要素を考慮し、最も疎外され、排除された人々が参加し、利益を得られるようにする

1.2 プランの方針とアプローチの中で、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とプログラムはどのように位置づけられているか

教育にジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れたプランの活動は、脆弱で排除された女の子たちが、すべての子どもたちとともにIQEを受ける権利を達成できるようにするという目標に根ざしている。私たちは、変革の3つの側面に焦点を当て、これを実現する

1. 有害な**社会規範、態度、人々の行動**に変化をもたらし、平等を促進し、CAYが健康で安全で幸せに成長できるようにする。

多くの社会で、根深く制限的な社会規範とジェンダー規範、人々の態度や慣習は、LGBTIQ+[2]であることを自認するCAYを含め、女の子、男の子、ユースにとって常に障壁になっている。これらは彼らにジェンダーバイアスと差別をもたらし、自分という存在の受け止め方や社会における自分の価値、そして期待される振舞いに影響を与える。女の子を排除する他の要因の悪影響も重なり合う農村部の女の子たちにとって、この障壁は最も大きく、教育を受けることはより困難になる。

こうした問題を抱えていることで子どもたちは、一般的・社会的な知識、能力、言語能力だけでなく、学校で成長するために必要な身心の健康、認知能力、運動能力を十分に発達させることができない。こうした環境は、教育を受けている間を通じて子どもたちの学習能力に影響を与え続ける可能性が高く、その結果、学習成果が低下し、中等教育への進学率が低下するため、働きがいのある人間らしい賃金の高い仕事に就くチャンスが少なくなる。

2. **社会的・経済的資源** を活用し、各人の可能性を最大限に伸ばすことができるよう、女の子・男の子・ユース女性・ユース男性を平等に支援する。

貧困のために親が費用を賄えなかったり、子どもの就学によって収入が減る可能性があるといった理由で、何百万人もの子どもたちが適切な時期に就学できなかったり、全く就学しなかったり、早期に中途退学したりしている。貧困は、早すぎる結婚、男の子優先、無報酬のケアワークに対する脆弱性を増すため、女の子にとって特に顕著な障壁となる。貧困はさまざまな形で子どもの教育に影響する：社会的経済的に不利な立場にある家庭の子ども、特に女の子は学校に入学しない場合もあり、入学したとしても、健康状態や家庭や近隣の環境に問題があるために十分就学できるレベルまで成長できていないことも多い。

3. **国際法、国内法、政策、予算、投資、サービス** を適用し、ジェンダー不平等と排除に具体的な方法で取り組む。

EFA（万人のための教育）の権利実現のために、利用可能な資源を最大限に投じるという国際条約上の義務があるにもかかわらず、多くの政府が教育に十分な投資を行わない理由は複数ある。その影響を最も受けているのは、脆く危機的な状況にある子ども、遠隔地に住む子ども、障害のある子ども、少数民族の子どもを含む、最も脆弱で排除された子ども、特に女の子である。このような子どもたちには、訓練を受けた教師、適切な資源と施設を備えた学校へのアクセスが最も少ない。

2 私たちは、多くの個人が男性または女性であることを認識している。また、性別は社会的に二分化されたものではなく、様々な可能性を含んでいることも認識している。これには、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、インターセックス（LGBTI）、性的指向や性自認に疑問を持つ人（Q）、その他の自認（+）も含まれる

Girls Get Equalを支援するため、女の子と男の子が協力している、エルサルバドル。

IQEの説明の説明では、プランが**グローバル**変革の理論的根拠にしている**セオリー・オブ・チェンジ**にある変革の3つの側面に従って、それぞれをどのようにIQEに適用できるかを概説している。プランは、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを以下のような形で教育に取り入れる:

社会規範、態度、行動の変革	社会的・経済的資源とセーフティネットの強化	政策枠組み、予算、サービスの改善
• 家族、コミュニティ、指導者、学校チーム、CAYと関わりながら、教育を妨げるジェンダー規範(性的指向、障害、早すぎる妊娠など)を特定し、それに代わる前向きな規範の構築を支援する。 • 積極的な「規範のトレンドセッター」、つまり、社会の期待に沿わない場合でも、IQEを支持する新しい慣習と行動を取り入れる心構えがある、あるいは既に取り入れている個人を特定し、支援する。	• 不就学の子ども、特に思春期の母親や、武力紛争やその他の危機的状況にあるCAYが就学/復学するために、地域コミュニティや組織の主導で代替/非公式教育の機会を提供する取り組みを支援する。 • 民間部門、政府、サービス提供者、市民社会間の対話と部門を超えた協働を促進し、サービスの質を高め、より利用しやすく、公平で、ジェンダーの視点に立った包摂的なものにする。	• 政策立案と実施、計画立案、予算編成、資源配分に至るまで、ジェンダーの視点に立ったESP(教育セクター計画)の開発と実施を支援する。 • カリキュラム、教員研修プログラム、教科書、政策、計画の質を向上させ、GE、人権、母語教育、紛争への対応、包括的性教育、レジリエンス(回復力)/気候変動を一体化するよう提言活動を行う。

ジェンダー・トランスフォーマティブな活動を支える6つの要素

プラン・インターナショナルが行うすべてのジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシー活動は、権利に基づいた**プログラムとアドボカシー・アプローチ**の公約と戦略に沿って、**プラン・インターナショナルのグローバルジェンダー平等と包摂方針** とそれに関連する**実施ガイドライン**,、さらにジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムに関するグローバルな手引きである**「Getting It Right」**に基づいて行う。「Getting It Right」では、ジェンダー・トランスフォーマティブな活動を支える**6つの不可欠な要素** を説明している。

1. ジェンダー規範が、誕生から成人まで子どもたちの **生活全体**にどのような影響を与えるかを理解し、それに取り組む。
2. 知識、自信、技能を高め、資源を手に入れ活用する力を身に着けることで、女の子とユース女性が自分にかかわる事柄について意思決定をし、目標に向かって行動できる **実現可能力(エイジェンシー)**を強化する。
3. **男の子、ユース男性、男性**と協働し、彼らがポジティブな男性性を受け入れてGEを推進するための支援を行うと同時に、これが彼らにとって有意義な結果をもたらすようにする。
4. **女の子・男の子・ユース女性・ユース男性** のニーズと関心事を特定し対応する際には、彼らの多様性を考慮する。
5. 女の子とユース女性の **状況** (日常的なニーズ)とともに**社会的ポジション** (価値や地位)を向上させる。
6. すべてのステークホルダー(利害関係者)が協力して、GEに向けてCAYを支援できる**環境**を育む。

トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシーの**6つの要素**は相互に関連しており、GTEプログラムを含むあらゆるテーマ分野を通じて見られる。本手引きでは、これらの要素と直結する場面を紹介し、社会変革に向けた変化の可能性が最も高い特定の取り組みと活動では一部の要素がどのように高まっているかに焦点を当てている。

プラン・インターナショナルのIQE概説

プラン・インターナショナルは、すべてのCAYには、少なくとも就学前教育から初等教育、中等教育までの期間、適切な年齢で、公式または非公式な環境で支援を受けながら安全に質の高い包摂的な教育を受け、課程を修了する権利があると考える。プラン・インターナショナル内部の政策方針書[3] は、包摂的で質の高い教育を受ける権利に関するプランの考え方を示すとともに、現在の世界的状況、法的・政治的枠組み、教育に関連する具体的な問題の分析を示している。教育を引き続き優先課題とする新しい世界戦略と、2030アジェンダおよびSDGsに関連するプラン・インターナショナルの活動は、これに基づいている。ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラム、特に、質の高いカリキュラムに関する提言活動の指針となる、次元の高い提言が数多く含まれている。

プラン・インターナショナルのGTEプログラムは、子どもたち、特に女の子のために達成したい成果を記したIQE概説を指針として行われている。この概説には、組織として注力すべき最重要戦略と、一貫性のあるジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシーを行うために投資すべき最も重要な活動分野も記載されている。また、教育の公平性、不就学のCAY、障害のあるCAY、学校関連の暴力と虐待への取り組み、緊急事態下の教育支援、学習成果の向上に対するプランの取り組みを概説している。

IQEのM&E枠組みの中で、5つの**IQE中核構成要素 QE Core Components** は、プランの活動全体で強力な教育プログラムを行う上で重要な構成要素だ。これらには、すべての教育プログラムで実施されるべききわめて重要な基本要素と、状況やニーズに応じて取り組みの中心分野とすべき補完的要素が含まれる。

3 この分析と見解は、人権と世界的なエビデンス、そしてプラン・インターナショナルのプログラム活動に基づいている。プラン・インターナショナルの教育政策方針書はこちらを参照： https://plan-international.org/publications/inclusive-quality-education

基本要素	
教育と学習	**優先的取り組み:** • ジェンダーの視点に立った学習者中心の包摂的な教授法、社会性と情緒面の学び、心理社会的支援を行うための能力を身に着け、注力する • 学校に関連して学校を基盤に行われる災害リスク管理に、個々の状況に合わせたさまざまな方法で取り組む • 学習環境の改善への生徒の参加を支援・促進する
補完的要素	
不就学の子ども	**優先的取り組み :** • 補助的な編入プログラムや加速学習など、就学/復学の仕組みを強化する • 代替教育の機会づくりと質の強化を支援する • コミュニティ主導の教育プロジェクトを推進・支援する
学校協治(子どもや保護者による主体的・自立的な学校運営)	**優先的取り組み:** • 保護者と指導者のエンゲージメントを含め、効果的で包摂的な学校運営を推進・支援する • ジェンダーの視点に立った包摂的な国・地方の政策・計画・予算のために働きかけを行う • 教育に影響を与える効果的な提携、連合、パートナーシップを促進する • 学校および学校当局における参加型の説明責任メカニズムを推進・支援する
学校環境	**優先的取り組み:** • セーフガーディング能力、災害リスク軽減など、通いやすく安全で保護された学校環境を支援する • WASHとMHM(月経衛生管理)を含む、ジェンダーの視点に立った包摂的な施設の拡充支援 • あらゆる多様性の中でCAYを平等に支援するための能力を育み、注力する。
カリキュラムと教材	**優先的取り組み:** • 包括的性教育をカリキュラムに組み込み、それを実施する教師の能力を支援する • カリキュラムに災害リスク軽減と気候変動への適応を組み込み、その能力を育成する • 紛争を考慮したプロセスを組み込み、実践する力を育む

これらがジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みとして実践されている具体例を、一部後述する。

IQEの概説とセオリー・オブ・チェンジ[4]に説明されているように、これらの中核構成要素はIQEの**3つの主要注力分野**にも関連している。

1. 不就学の子どもと思春期の若者(特に脆弱で排除されたグループに属する女の子)が教育を受けるための効果的な手段

- 加速教育モデル、非公式教育と同等の教育プログラム、ICTやデジタルなどの柔軟な教育提供方法の開発、提供、拡充。
- 特に早すぎる強制された結婚や思春期の妊娠に関して、女の子に焦点を当てる。
- 学校をより包摂的で子どものニーズにもっと応えられるようにするために、コミュニティを巻き込み、そのエンゲージメントを図る。
- アクセスや学習成果における格差と効果的な取り組み事例の評価を行うために、細分化されたデータを収集する。

2. 学校で行われるジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みの内容、実践、行動

- 教員研修と継続的支援におけるジェンダー主流化(ジェンダーの視点に立った立案・事業計画・実施・モニタリング・評価・組織の運営)。
- ジェンダーバイアスやステレオタイプを取り除くためのカリキュラムと教材の改訂。
- 女性教員の採用と管理職への登用を増やす。
- 学校協治に参加する女の子、その母親、その他の女性を増やす。
- 柔軟なスケジュール、学習・評価モデルを活用して、既婚の女の子、妊娠中の女の子、若い母親の就学を支援する。
- 早すぎる結婚に歯止めをかけ、妊娠率と女の子の家事負担を軽減し、女の子の出席状況・教師の行動/社会規範のモニタリングを行うことで、コミュニティが女子教育を支援するよう働きかける。

3. 安全で強靭な学習環境

- 公式教育が実施不可能または安全に行えない場合、巡回チームやITを含む革新的な手法を開発する。
- 学校と教育システムを通じて、災害リスクの軽減、対応・復旧・回復への備えの強化を推進する。
- 環境意識と持続可能な実践、持続可能な開発と気候変動への適応のための教育を推進する。
- WASH設備、MHM施設を含む、安全で強靭な学校インフラをつくる。
- 学校方針、研修、行動規範によって暴力をなくし、行動と社会規範の変容を試みる。

プラン・インターナショナルは、これらの主要注力分野全体にわたってジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れ、特に脆弱で排除された女の子たちがすべての子どもたちと共にIQEの権利を達成することを目指している。

4 IQE AoGD Packageはこちらから閲覧可能:https://planinternational.sharepoint.com/sites/planetapps/Programmes/thematic-work/IQE

2.

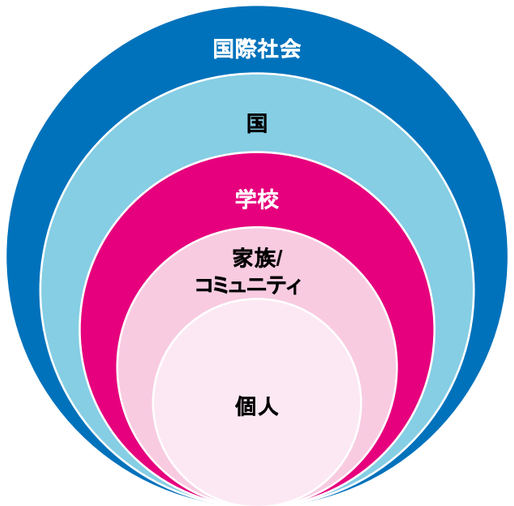
したがって、**ジェンダー・トランスフォーマティブ教育プログラム** は

1. **個人とコミュニティレベルで社会規範の変革と女の子のエンパワーメントを行うこと**で、早すぎる結婚の根本原因に取り組む。
2. 既婚の女の子、妊娠中の女の子、若い母親が質の高い包摂的な教育を受けられるようにするため、**学校および国レベルの政策と制度の強化** を目指す。
3. 早すぎる結婚を減らし、既婚の女の子に対する差別を防ぐために、**社会規範と慣習の変革に向けた教授法とカリキュラム**を推進する。

プラン・インターナショナルの教育プログラムには、各レベルで具体的にステークホルダーや制度を対象とした取り組みが数多くある。**本手引きでは、各レベルで変化の見られる主な分野を選び、具体的な活動がどのように社会変革につなげられるか、例を示す。**各レベルの取り組みについて簡単に紹介し、次にプログラムの主要分野について、活動の種類と「何が変革をもたらすのか」例を挙げて説明する。

Nelly教諭は「未来のための起業家育成」方法を支援（ペルー）。

ここで注意すべきことは、この手引きに概説されている活動が、プラン・インターナショナルの経験や各レベルで変化につながる可能性のある取り組みのすべてではないということだ。むしろ、これらの活動例を示す目的は、教育プログラムを包括的で一層ジェンダー・トランスフォーマティブな内容にするために、各レベルで取り入れられるアプローチと活動の焦点を示すことである。この手引きが読者らにとって、教育プログラム内のいかなる活動にも同じアプローチと批判的指向を取り入れ、ジェンダー平等達成に向けた進展をどのように後押しできるかを知るヒントとなることを期待する。



緊急時の教育

このセクターが、人道的プログラムの中で明確に定義されたカテゴリー、言い換えれば、他部門との連携をとらない「サイロ」から脱却し、緊急時の状況の多様性と連続性、そしてその長期化をますます認識するようになるにつれ、GEは災害や緊急時のあらゆる局面でとらえる必要があり、効果的に復興し発展する上で不可欠な側面であることが認識されるようになった。

すべての 取り組みは、IASCのGender with Age Markerプロセスで評価され、最低4点、 つまり「GEに貢献する可能性がある」ことを示さなければならない。

「ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムは緊急時にどの程度まで可能か」という重要な問いは、GEと人道的分野の両方で活動する多くの人々にとってなじみ深いものだろう。その答えは、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムが、それによって変化を完全に達成することではなく、変化のプロセスのひとつの段階を示していることを理解する気持ちが私たちにあるかどうかで大きく異なる。トランスフォーマティブ・プログラムを、社会変革に向けた変化につながる活動として理解すると、その問いを次のように言い換えることができる。つまり「緊急時の教育プログラムで、社会変革に向けた変化に貢献する機会はどんなものがあるのか」と。

災害・緊急対応プログラムや、長期化する紛争下の住民を対象とするプログラムには特有の課題がある一方で、安定した発展という文脈で設計された教育プログラムとの共通点も、当然ながら数多くある。それは根本的に、いずれにおいても教育への障壁の根本的原因である不平等なジェンダー規範に至急取り組む必要があり、こうした不平等への取り組みには著しい効果と変革につながる可能性があるということだ。

プランの中では、すべての緊急対応プロジェクトは、性別、年齢、障害の有無で細分化されたデータの収集や、教育への、また教育におけるジェンダーに基づく障壁を特定・分析する上で必要な情報を含めた、迅速なニーズ評価とジェンダー分析を経なければならない。

EiEがジェンダー・トランスフォーマティブになるかどうかは、プログラム活動の中で変革の可能性の最大化に向けて注力するかどうかはもちろん、具体的な活動状況にある機会と課題によって決まる。

どうすれば個々の活動を社会変革につなげられるか。この手引きの中の多くの例は、資源、プロジェクトの期間、地域の状況に応じて、程度の差はあれ、EiEプログラムにも取り入れることができる。さらに、本書では、取り組みの各レベル（個人、家族・コミュニティ、学校、国、国際社会）におけるEiEプログラム特有の課題と機会についても簡単に触れている。

「…そのような時こそ、社会変革に向けた変化を生む機会となります。災害や紛争の最中や後には、社会の権力構造が歪められ、役割の見直しを迫られることも少なくありません。ジェンダー関係の変革に注力する組織として、プランはこうした時や場所で活動し、社会規範を変革し、女の子のための永続的な変化を達成する機会を捉え、女の子の権利を損ないかねない後ろ向きの変化に抵抗する必要があります。」

プラン災害リスク管理グローバルビジョン

Tort、23歳、英語を教えている（カンボジア）。

ニーズと機会の理解：ジェンダー、包摂、年齢分析

どのセクターであれ、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシーの目標は、社会規範、態度、行動を変化させることである。そのためには、個人間、家族間、コミュニティ内、制度や組織など、上記の各レベルにおいて、対象となるコミュニティの状況を深く理解する必要がある。

プラン・インターナショナルは、トランスフォーマティブ教育プログラムを、以下の約束に基づいて行う。

- 学習者個人から教育政策に至るまで、あらゆるレベルで教育と機会を阻むジェンダーに基づく障壁を精査するジェンダー評価/状況分析を行う。これには、学習者個人、保護者、コミュニティ住民、教師、教育行政にかかわる者からの質的・量的データ収集、政策環境やカリキュラムの分析が含まれる。
- 対象グループ内およびグループ間に存在する交差性と多様性を明確に検証する。この分析の性質は、対象となるコミュニティ社会における力学と、どのような要因が疎外を助長し、ジェンダー不平等を悪化させているかによって決まる。たとえば、民族的、言語的、人種的差別、障害/能力的差別とアクセス性、年齢、配偶者の有無、ジェンダーや性的アイデンティティと表現に関する差別、貧困と社会階級、法的地位と市民権、移動や移住などである。
- 文化的背景と達成可能な変化の性質を理解する。ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムは、GEを達成するのではなく、GE達成に向けた変化を後押しするものである。あらゆるトランスフォーマティブ・プログラムの目標と目的は、それが継続した変化の中で、すなわちGE達成に向けた歩みの中でどこに位置づけられるかを認識したうえで、プログラムの範囲とその周辺の文脈の中でもっとも効果的な変化を達成できる取り組みを各レベルで設計しなくてはならない。
- 分析は、プロジェクトの構想や設計の初期段階で行われ、プログラムとアドボカシーの質に関する方針の手順やジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーなどの主要プロセスや手順に反映されることが重要である。

2.1 個人レベル

このレベルの活動は、個々の子どもの知識、エイジェンシー、社会的資本を高めようとするものである。あらゆる多様性のなかで学習者一人ひとりのニーズと障壁に目を向け、質の高い教育を受ける権利を実現する能力を交差しあいながら制限している要因を分析する。これらの活動は、プラン・インターナショナルのすべてのプログラムの中心である子どもに直接働きかけるものだ。トランスフォーマティブな教育システムを構築するためには、教育システム、サービス提供、環境を強化することが不可欠であるが、子どもたち、特に女の子が経験するジェンダーに基づく障壁と差別について、質の高い包摂的な教育、参加、代表権を要求し、主張するための準備と態勢をしっかり整える個人レベルでの取り組みも必要である。

このレベルの活動は、知識、技能、態度から経済的、物理的資源に至るまで、学習者個人の個人的、社会的、経済的資産に目を向けている。これらの活動は、個人、特に最も脆弱で排除される女の子とユース女性の*状況と社会的地位*を改善し、教育に対する直接的な障壁に取り組むとともに、女性と女の子の生活全体を通して生涯にわたる学習への参加を妨げる不平等を理解し、それに対応することを目的としている。

したがって、これらの活動には、*生涯にわたって持続可能な社会的変化（戦略的ニーズ）*が含まれる。セルフケアや保護、SRHRに関するスキルと知識の習得、コミュニケーションと参加スキルの構築、社会的ネットワークの強化や確立、エイジェンシーの向上や意思決定力の育成など。このレベルの活動には、個々の学習者の当面の実際的なニーズを対象とした短期的または一時的な取り組みも含まれる：経済的支援や、教育へのアクセスに不可欠な重要な資源の一時的な提供など。

トランスフォーマティブな活動として効果を上げるために、こうした活動では（各個人ではなく）個人を全体として捉え、その現実的かつ戦略的ニーズと関心に応え、彼らを自分自身のエンパワーメントの中心的な担い手として参加させなければならない。

個々の女の子と男の子のエンゲージメント

どのような活動か

子どもたちが多様性を探求し、理解し、尊重するためには、乳児期から支援を行う必要がある。また、子どもが学校やコミュニティを自分の居場所として捉える感覚を育て、地域やより広い環境を大切にし、自分自身を大切にする方法や他者を尊重し、他者と関わる方法、さまざまな感情に対処する方法を理解できるようになるには、サポートが必要である。これらは、社会の中でGEを築くために不可欠なスキルである。

I思春期の女の子と男の子を直接対象とした取り組みは、通常グループ単位で行われ、特定のカリキュラムに沿った非常にしっかりとした講習会から、話し合いが中心でもっと気楽な集まりまで、多くの形で行われる。学校を拠点とするクラブ、思春期の若者貯蓄グループ、コミュニティでの対話、ユース立ち寄りセンター、プロジェクトに集まったグループなど、対象グループや取り組みの性質に応じて、数多くのきっかけや働きかけが用いられる。

個人レベルの活動は、プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシーの**要素1～5**に基づいている。活動を通して生涯学習を促進し、可能にするために、生活全体を通して持続する変化に影響を与えるよう努力する（要素1）；教育を受ける権利を主張するために、あらゆる多様性を持つ女の子とユース女性の知識とエイジェンシーを高める（要素2と4）；プログラムは、ユース男性と男の子を変革のパートナーとして積極的に巻き込み、家庭、学校、コミュニティにおける、より平等なジェンダー力学が彼らにとっても良い結果をもたらすものである必要がある（要素3）

18歳のLovenessと17歳のShakiraは、マラウイのイニシエーション・キャンプでまったく異なる経験をした。

トランスフォーマティブであるためには

こうした取り組みの多くは、学校やその他の学習空間で行うことができるが、思春期の若者を対象とした特定の活動は男女別に行われるべきである。つまり、男の子と女の子が別々に集い、対話と協働のために機会を設けるということである。このような活動の計画と実施は、最も疎外され排除された人びとが参加して支援を受けられるよう、言語、移動、宗教、民族性などの要素を考慮し、参加者の多様性を考慮したものにする。

- ジェンダーに基づいた社会規範を変革するためには、あらゆる多様性の中で女の子と男の子のさまざまな経験に基づいて、女の子のエンパワーメントと、GE達成に向けた男の子のエンゲージメントという目的に対応した内容をカリキュラムやプログラムに盛り込むべきである。たとえば、ユース男性と男の子と活動することは、彼らが有害な男性性を研究し、非暴力的なコミュニケーションを積極的に受け入れる後押しになるはずだ。一方、女の子やユース女性と行う活動は、自尊心、コミュニケーションをとりながら自分を主張するスキル、または経済的エンパワーメントに焦点を当てたものになる可能性がある。
- 社会変革に向けた変化を起こすには、時間と熟練したコミュニケーションが必要である。

したがって、円滑に進める高い技能と長期間のエンゲージメントを確保するために、こうした活動には十分な投資を行うべきである。たとえば、ユースのエンゲージメントは、6～12ヶ月、あるいはそれ以上の長期に及ぶ可能性がある。信頼関係を築き、進行役が辞めないよう、熟練した進行役への報酬と、進行技能の向上に必要な資源を含めた予算をプロジェクトに計上すべきである。

- その内容は、基本的な生活技能や情報にとどまらず、*参加者の態度と行動を変容させ*、より対等な関係、コミュニケーション、意思決定を促進することを目指すものでなくてはならない。たとえば、こうした活動は、指導を受ける形よりも参加型で参加者個人のエイジェンシーに焦点を当て、理論的な概念について話すよりも参加者の個人的な経験に基づき、GE、GBV、ポジティブな男性性について年齢に応じた議論をするものが良い。また、ジェンダー・アイデンティティや民族性に基づく差別など、各状況に関連して交差する要因も取り上げる必要がある。

事例研究

チャンピオン・オブ・チェンジ（ジェンダー平等のための男の子のエンゲージメントと女の子のエンパワーメントを目的としてユース男女が変化の担い手となって各国で行われている活動）

Champions of Change Introductionより引用: Facilitator's Manual. Plan International, 2017

女の子の権利とGEを促進するチャンピオン・オブ・チェンジの取り組みは、ユースのエンゲージメントとピアツーピアの働きかけを通じてGEと社会規範の変革を進めるプランの戦略の1つである。その包括的な目標は、社会規範に異議を唱え、GEと女の子の権利に対する社会全体からの支持を得る、ユース主導の社会的ムーブメントを引き起こすことである。

チャンピオン・オブ・チェンジは、女の子のエンパワーメントと男の子のエンゲージメントをすすめるプランの革新的で包括的な方法である。このカリキュラムには、魅力的で、状況に合わせられる、思春期にやさしい活動が含まれており、女の子と男の子が自身の生活に基づき、置かれた状況の中で知識、態度、スキルを身につけるよう促す。このカリキュラムは、女の子用と男の子用に分かれているが、相互に関連している。各カリキュラムは、女の子と男の子の変化に対応した内容になっていると同時に、前向きなコミュニケーションと協力を育む。女の子は、エンパワーメント、自尊心、権利意識、集団的な力に焦点を当て、男の子は、支配的な男性性から解放され、男の子が社会規範からどのような影響を受け、女の子の権利と万人のためのジェンダー正義をどのように支援できるかを理解することに焦点を当てる。男の子と女の子は、度々集まって、ジェンダーと社会変革に対する自分たちの考え方の変化について話し合い、アウトリーチ（支援の届きにくいところに出向いて行う活動など）で協力し合う。

女の子のカリキュラム

中核的モジュール: 自信を持って自己主張すること、ジェンダーの意識を持つこと、自分の身体に自信を持つこと、SRHに関する知識を持つこと; 性的権利と生殖に関する権利を享受すること、GBVのない生活をすることと、経済力を持つこと。

男の子と共通のモジュール: ジェンダーに関する対話。

プログラム特有のモジュール: 早すぎる結婚のない生活、都市で安全でいること、ジェンダー・トランスフォーマティブを促す提言活動。

男の子のカリキュラム

中核的モジュール: 連帯感を持つこと、ユース男性であること、性に関して責任を持つこと、個人的な関係において非暴力であること、GEに注力する変革の担い手であること。

女の子と共通のモジュール: ジェンダーに関する対話。

「チャンピオン・オブ・チェンジ」ワークショップを受講したBrenda、エルサルバドル

- プログラムで研修、ワークショップ、継続的な見守り支援を行うことで、ユースが意思決定に参加する（例えば子ども議会）、同世代間で保護や紹介を行う、そして包摂的で質の高い教育を積極的に提言するための公式・非公式ネットワークの力を醸成することができる。

資源と現物支援の提供

どのような活動か

これらの活動は、多くの女の子が物質面、資源面で直面する教育への障壁に対処するものである。学費の支払い、学用品の提供、現金給付、制服の購入などの支援を行うことで、経済的な障壁に対応することができる。学校給食プログラムの設立や支援を通じて、栄養不良など女の子に偏った影響を与える貧困の他の状況にも対処することができる。また、自転車の提供、安全な通学のためのコミュニティによる見守り、交通費の支給などを通じて、距離の問題やGBVのリスクに対処できる場合もある。この種の活動は、排除され経済的に弱い立場にある子どもとその家族のための社会的資産とセーフティネットの構築を目指す、より大規模で組織的な取り組みと常に関連づけて行われるべきである。

トランスフォーマティブであるためには

これらの活動は、以下の学校インフラのセクションで説明されているように、それだけではジェンダー平等に向けた社会変革をもたらす力はない。なぜなら、不平等な力関係の根底にある差別的な社会規範を変えることはできないからである。だが、ジェンダー不平等の1つとして女の子が実際に直面するアクセス面での障壁に直接対処するという点で、これらはトランスフォーマティブ・プログラムに不可欠な側面である。たとえば、通学時の安全を守る見守りは、GBVの根本原因に対処するものではないが、女の子がリスクを回避することはできる。これは、女の子が安全に通学できるようにすると同時に、GBVを社会規範として受け入れ永続させる態度や行動をなくす、あるいは減らすために、男性や男の子、コミュニティ、保護システムに働きかける点で、1つのトランスフォーマティブ・プログラムになる。

Cássia（18歳）と学校の卒業写真（ブラジル）。

緊急時の教育

個人レベル[5]

危機下では、女の子と男の子が教育を受けることを阻む障壁は一層高くそびえ立ち、複雑化する場合が多い。子どもが紛争、移住、移動の制限、極度の貧困のために学校に通う可能性が低くなるEiEのプログラムでは、CAYの知識、エイジェンシー、社会的資本を高め、質の高い教育を受ける権利の実現を支援するためにCAYと共に取り組むことは重要な要素である。（だが）危機や紛争下で学校制度が弱体化または廃止され、安全上の不安から移動や時間が制限され、経済的貧困から通学が困難になる場合、子どもたちにプログラムを提供するのは一層困難になる。

紛争や危機下で男女の学習者が教育において直面する障壁をジェンダーに基づくものだと認めることは、適切な実施戦略を立てる上で非常に重要であるが、こうした分析を通して社会変革につながるチャンスが明らかになる場合もある。緊急事態の状況によっては、女の子が通学できなくなった結果として、あるいは娘を育てる経済的負担を軽くする方法として、あるいは不安定な状況下で娘の安全を守る策になると考えて、早すぎる結婚のリスクが高まる。女の子はまた、早すぎる妊娠やGBVのリスクも高まる。男の子は、家計を支え、家庭を守るといった伝統的な男らしさの概念に縛られるだけでなく、紛争中に兵力として徴用されたり、職に就くことを迫られたりして、学校を離れることもある。

脆弱性の高まった状況で、子どもが質の高い包摂的な教育を受け、参加し、代表する権利を要求し、主張できるようにするためには、ジェンダーに基づく障壁、排除、暴力への取り組みは個人レベルで行わなければならない。EiEのプログラムでは、就学にかかる直接的または間接的な費用を支援するための現金給付や、生徒のための通学・衛生キット、女の子のためのMHMキットの提供、衛生とSRHに関する情報提供など、子ども一人ひとりの実際的なニーズに焦点を当てることが多いため、必要に応じて、子どもの保護やGBVに取り組んでいる者と緊密に連携して、GBVに対処するための多セクターによるプログラムに関与するなど、紛争下におけるジェンダー不平等の根本原因に取り組むプロジェクトと連携して行う機会を模索すべきである。紛争や危機の中で個々の女の子や男の子と直接関わることは、有害な社会規範に取り組み、エイジェンシーと自信を育み、社会的ネットワークとピアサポートを醸成することになり、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとして大きな可能性を秘めている。

5 Guidance Note: Gender. INEE, 2019より引用

2.2 家族・コミュニティレベル

このレベルの活動は、女の子と男の子の教育を可能にする環境づくりである。女子教育の価値、早すぎる結婚・妊娠、家庭の役割/責任と女の子の労働負担、移動の制限、性暴力とGBV、女の子のエイジェンシーと意思決定は、社会規範・価値観と結びついている。こうした根深い不平等の構造には、家族、特に男性・女性の保護者、コミュニティ、信仰指導者、コミュニティの政治家・伝統的指導者、コミュニティの鍵を握る存在の男性・女性やロールモデルまで、広い対象で行われるプログラムで取り組む必要がある。

このレベルでの活動は、女子教育とGEに対する態度と行動を変えるようにステークホルダーを巻き込むだけでなく、ジェンダー正義とEFA（万人のための教育）の実現に向けて彼らが積極的に参加し提言活動を行うよう働きかけることも必要である。子どもたち、特に女の子の教育を支援するために、早すぎる強制された結婚の抑止、早すぎる妊娠の防止、女の子の家事負担の軽減、女の子と男の子の出席状況や教師の行動の監視など、コミュニティの行動を促すことが、GTEプログラムの重要な要素である。例を挙げるなら、GEを単に女の子を学校に通わせることとして理解する*次元を超えて*、包括的性教育のカリキュラム、ジェンダーの視点に立った教授法、偏見のない教科書、女の子クラブ、スポーツへの取り組みなど、GTEを構成するさまざまな要素を支持し提言活動を行うよう、各コミュニティに働きかけていくのが、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチである。

教育にジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れた活動を動かすのは、コミュニティでなくてはならない。GEと排除に関する根深い態度と信念を変革するためには、**コミュニティ内部から変革の力となるべく組織づくりをする必要がある**。コミュニティが理解を改め、女子教育がコミュニティに最善の利益をもたらすことを受け入れるようになれば、そのプロセスはトランスフォーマティブだと言うことができる。

親・保護者のエンゲージメント

どのような活動か

親・保護者は、実の親であれ、養父母であれ、祖父母であれ、拡大家族であれ、教育プログラムにおける変革の担い手として不可欠な存在である。保護者は、PTAとの協力、保護者やコミュニティ住民が実際に学校活動やインフラ整備の力となる学校支援活動への参加、「教育のための貯蓄」グループ、ポジティブな親業など、さまざまな形で活動に参加することができる。女の子・男の子のエンゲージメントと同様、保護者も、貯蓄グループやPTAなど、既存のコミュニティグループや集まりを通じて参加したり、具体的なプロジェクトへの参加を募ることもできる。

こうした活動の計画と実施は、言語、識字レベル、移動の制約などの要素を考慮して、あらゆる多様性を持つ参加者を対象とし、参加者全員が活動に参加できるようにする必要がある。保護者が絡む場合は、通常、収入創出活動、労働移民、季節労働のパターン、育児責任などに対応するために時期、頻度、場所などの面で一層の柔軟性が必要になる。

家族とコミュニティレベルの活動は、プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシーの**6つの要素すべて** に基づいている。これらの活動は、あらゆる年齢の女の子と女性に適用されるジェンダー規範の変化をもたらし、生涯学習を可能にするよう努める（要素1）；あらゆる多様性を持つ女の子とユース女性が、家庭やコミュニティで教育を受けるために必要な資源へのアクセスを促進する（要素2と4）；女の子の教育を受ける権利を促進しGBVのような障壁に取り組むために、コミュニティ内の男性保護者と男性指導者と直接協力する（要素3）。教育の男子優先、早すぎる結婚、その他のジェンダーによる教育への障壁を助長する、女の子は価値が低いという社会的認識を変えることを目指す（要素5）；そして、保護者とコミュニティ指導者を、女子教育のパートナーや支援者として参加させる（要素6）。

Laxmiの母親は、彼女を担いで坂を下り、学校に通うのを手伝っている、シンドゥパルチョーク、ネパール

こうした取り組みは多くの場合男女別ではないため、保護者は男女混合の活動に参加することになるが、その結果、学校レベルの活動に参加するのは女性保護者が多く、意思決定や統治活動に参加するのは男性保護者が多いなど、活動によって参加が男女どちらかに偏る場合がある。

トランスフォーマティブであるためには

ジェンダー規範に挑戦し、変革するためには、家庭レベルでの意思決定や資源配分で女性と男性の保護者が実際に担っている役割を把握すること、そして、例えば、女子教育の価値の向上、早すぎる結婚の防止、家事労働とケアワークのより平等な配分などを通じて**GEを推進し、女の子のエイジェンシーや教育へのアクセスを制限する有害なジェンダー規範に挑戦するためのエンゲージメント（ジェンダー平等達成のために理解を深め活動に参加し、自らと人々の意識・行動を変えていくこと）**を目標とすることが不可欠である。

- カリキュラムやプログラムは女性/男性保護者それぞれの特徴を捉えた内容にし、女の子のエンパワーメントと男の子のエンゲージメントという目的を促進し、また女子教育の価値、早すぎる結婚、女の子の移動など、女性や男性の保護者が変えるべき態度や行動変化のタイプに関する基本情報や評価情報に対応する必要がある。
- 子ども一人ひとりを対象とした活動と同様、こうした活動も、効果を上げるためには長期にわたって取り組む必要である。プログラムをトランスフォーマティブなものにするには、男女問わず学習者の保護者が長期にわたって取り組み、態度と行動を変え、その変化を持続していかなければならない。プロジェクト計画と予算編成は、こうした点を反映する必要がある。
- 保護者の行動変化を促すプログラムでは、たとえば、家事の負担が女の子に偏っているために女の子が時間の貧困を経験している、男子教育を優先するために女の子が家庭学習で男の子のような支援が受けられない、女の子の移動が制限されていて課外活動や通学が制限されているなど、家庭で女の子が教育面で直面している具体的なジェンダーに基づく障壁にも積極的取り組んでいく。

Ana と子どもたち、プランの子どもに優しいスペース、トゥンベス、ペルー。

事例研究

NIDOPOLIS [NESTOPOLIS] – 教材

“Las aventuras de Zuri”, Didactic guidance for girls, boys and caregivers at home (12 to 15 years old), Plan International Perú, April 2020, p.30より引用

ズーリの冒険」は、COVID-19の文脈の中で、6歳～15歳の女の子と男の子を対象とした家庭学習用教材として開発された。架空のキャラクターが、読者と同じような孤立や状況を経験するという、疑似的な物語が展開される。この教材（物語と年齢別の3つの教育ガイド）は、ベネズエラ危機に対応した緊急教育プロジェクトPasos Sostenibleのツールである。

この教材は、社会性と感情的知性を伸ばす学習（SEL）に焦点を当て、家庭を安全な学習空間に変える上で役立つ利用しやすいツールを、大人、子ども、思春期の若者に提供することを目指している。ジェンダーに焦点を当てて皆で責任を担う考え方がトランスフォーマティブな要素であり、女の子と男の子が日課を決めて、同居している家族の中で平等に家事を分担するためのサポートの仕方とすべての子どもにとって前向きな学習環境の作り方について親にヒントを提供している。

親・保護者へのメッセージ

- 子どもと思春期の若者は、観察と模範によって学ぶことを忘れてはなりません。大人の女性と大人の男性が平等に仕事を分担することは、子どもたちが公平さと包摂性、責任と自覚を学ぶのに役立ちます。また、より良い人間関係を築く上でも役立ちます。
- ジェンダーに関係なく同じ責任を持つことは、女の子や思春期の若者の自尊心と自立心を育みます。

30 PLAN

¡Recuerda que las niñas, niños y adolescentes aprenden a través de la observación y el ejemplo! Dividir las tareas, de forma igual, entre mujeres adultas y hombres adultos ayudará a que aprendan a ser más respetuosas y respetuosos, responsables y conscientes. ¡También les ayudará a mejorar sus relaciones en el futuro!

¡TENER LAS MISMAS RESPONSABILIDADES, INDEPENDIENTEMENTE DEL GÉNERO, FORTALECE LA AUTOESTIMA E INDEPENDENCIA DE LAS NIÑAS Y LAS ADOLESCENTES!

¡Recuerda! Pedirle a una niña, niño o adolescente hacer tareas que no corresponden a su edad afecta su desarrollo físico y emocional.

¿CÓMO COMPARTIR TAREAS?

Los quehaceres del hogar son de responsabilidad de todas las personas que allí habitan y ayudan a formar habilidades para la vida. Asignar tareas de la casa a las niñas, niños y adolescentes por igual, les ayuda a desarrollar responsabilidad y autonomía. Ahora bien, es importante tener en cuenta sus límites. Asígnales tareas específicas, en función a su edad y capacidad.

コミュニティのエンゲージメント

どのような活動か

教育プログラムにコミュニティが関与することによって、学校への財政的・現物的支援を集める、特に女の子にとっての教育の価値を高める、早すぎる結婚など教育を阻む保護関連の障壁に取り組むなど、多くの目的を果たすことができる。コミュニティは、特定のコミュニティ住民のグループを対象にすることも、より一般的で広範な形で関与することもできる。たとえば、早すぎる結婚と闘うために、宗教指導者やコミュニティ保護委員会を対象としたコミュニティ参加活動や、ALP、AEP、学校行事などの教育サービスに関する情報を広くコミュニティに伝えるスポット広告をラジオで放送することもできる。コミュニティ劇場のイベントから、行動変化を目的とした集中的な研修やワークショップ、単に啓発を目的とした看板やチラシまで、活動の形やレベルは無限にあると言える。

トランスフォーマティブであるためには

家庭レベルでの意思決定や規範設定のカギを握っているのは親と保護者だが、より広範なコミュニティが関与することはコミュニティレベルでの変化をもたらすだけでなく、 **個々の女の子がエイジェンシーを発揮でき、それを受け入れる安全な環境をつくる**上でも、同様に重要である。コミュニティ参加型活動は、**g有害で差別的な社会規範や行動を変革することを明確に目指して行われていれば、ジェンダー・トランスフォーマティブな活動になりうる**。

たとえば、女子教育の価値をコミュニティの経済的利益としてではなく、*基本的権利*として促進したり、GBVに対する保護と説明責任を要求したり、女性と女の子が仕事と意思決定に平等に参加できる機会を広げるために家庭での家事・ケアワークの割り当てや分担に疑問を投げかけるといった形がある。

- 力の力学を変革することを目的としてコミュニティが関与する場合は、特にジェンダーに基づく力の力学の中で、変革に*最も影響を与える可能性のあるコミュニティ住民を対象とする*。対象者はジェンダーと包摂の分析によって明らかになるはずだが、政治指導者、宗教指導者、祖母や長老のような社会のご意見番などが考えられる。
- トランスフォーマティブ・プログラムで行われるコミュニケーションは、コミュニティへの情報提供にとどまらず、女の子の教育を受ける権利、早すぎる結婚やSRH情報や資源へのアクセス欠如など教育の障壁となる有害なジェンダー規範、そしてGBVに関連するコミュニティ住民の*態度と行動の具体的な変化を目指した*社会の行動変化をもたらすものにする。
- 個人や保護者の関与と同様に、態度と行動の変化を目指してコミュニティが関与する場合も、たとえばコミュニティ劇場、ラジオのスポット広告、変革を担うためのトレーニングなど、メッセージを伝えるために多くのメディアや活動を利用して長期にわたって繰り返し行う必要がある。

ガールズ・リーダーシップ・アクション（女の子たちがさまざまな地位にある人々の役職・地位を一日体験し、リーダーシップを発揮できる社会の実現に向けた提言をするアクション）での女の子たち、アスンシオン、パラグアイ。

緊急時の教育

家族/コミュニティレベル

紛争、移住、移動の制限、極度の貧困のため、女の子が学校に通う可能性がさらに低くなるEiEプログラムでは、女子教育を促進するために保護者やコミュニティ住民と協力することも同様に重要である。実際、EiEにおける変革の可能性は、特に学校制度が限定的にしか機能せず、教師の数が少ない、あるいは訓練が不十分であるコミュニティレベルで最も大きいとみられる。

コミュニティ組織は、緊急時には、その局面に応じてさまざまな課題を抱える可能性がある。たとえば、社会的・政治的環境が変化する中で、中立・非極党派の主要なコミュニティリーダーや変革の担い手を把握するのが困難であったり、保護者も指導者も長期間の取り組みに時間を割くことができない、あるいはその意思がなかったり、メッセージを伝えるためのラジオやテレビなどのメディアが限られていたり、機能していなかったり、公共の行事のために集まる安全な場所がなかったり、治安が悪化して集まりや研修のための移動が制限されたりする恐れがある。こうした問題に直面する可能性があっても、EiEプログラムでは保護者とコミュニティ住民との協働が必要であり、人道的原則（Do No Harmを含む）を守り、紛争の力学を悪化させないように注意しながら、女子教育を阻む障壁に取り組むために、権利に基づくジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れる必要がある。

しかし、EiEプログラムには重要な機会もあり、それはニーズ評価の段階で特定されるはずである。通常社会でとられる権威と意思決定のパターンが妨げられた場合、意思決定の方法、資源の分配方法、教育を含むサービスへ誰が参加し、そのサービスを受けるかを見直す必要が生まれることが多い。たとえば、世帯主やコミュニティ指導者など女性が伝統的に担ってこなかった役割を担う女性が増えた場合、意思決定の力学に根本的な変化が起きて女性と女の子のエンパワーメントを高める機会になる可能性がある。ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムはそうした機会を積極的に捉え、女性や女の子と協働して、家族内や社会全体に起きるこうした変化のうねりを増幅し、女の子の教育へのアクセスと修了を促進する。

2.3 学校レベル

多くの子どもたち、特に女の子は、学校に入学することができても、教室の中やより広い学校環境で課題や障壁に直面して安全性やエイジェンシー、学習経験を損なわれている。多くの場合、学校は社会通念や慣習を映し出す鏡であり、学校の運営管理方法、学校を取り巻く社会文化や環境、学校内で掲示され、学校から発信されるコミュニケーションやメッセージの種類によって、ジェンダー差別が永続化する、あるいは意義を唱える声が上がるという違いが生まれる可能性がある。そのため、教育におけるジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムでは、文化的・物理的インフラ、学習資源、教授法、教室環境と管理、生徒の参加など、学校環境全体にある課題に取り組むことが重要である。

学校レベルでの活動は、教育者の態度や行動だけでなく、あらゆる多様性を持つ女の子と男の子の視点を含む、学校環境全体の批判的分析に基づき、それに応えるものであるべきである。こうした活動は、ジェンダー、障害、貧困、年齢、民族性、言語など、差別と疎外を生む交差する要因がもたらす課題を反映したものであるべきだ。通常、学校協治、物理的環境、学校文化、生徒の関与や活動など、学校レベルの教育経験を決定づけるさまざまな側面で取り組みが行われる。学校レベルでジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みを行う際は、こうした要素が不平等なジェンダー規範や差別を持続させ、強化している実状に特に目を向け、ジェンダーに配慮するだけでなく、明確にGEと包摂を促進するように変革することを目指す。

学校協治

どのような活動か

SMCやPTAのような学校管理機構への関与と強化には、管理、予算編成、業務計画に関する研修、コミュニティの関与、資金調達、説明責任、SMCやPTAの構成とリーダーシップに関する規約と体制の強化、標準業務手順に関する研修など、さまざまな活動が含まれる。活動内容は、学校システム内で統治機構がどの程度正式なものとして定着しているか、また教育省による監督や指導がどの程度行われているかによって異なる。

トランスフォーマティブであるためには

意思決定に参加する場を増やすとともに、生徒への説明責任を高めることが、教育を通じて女の子と男の子の力を確実に高める鍵である。トランスフォーマティブであるためには、**学校の統治機構に、あらゆる多様性を持つ女性、女の子、コミュニティの代表がいるだけでなく、**特に意思決定プロセスにおける**こうした代表の参加が意味のあるものでなければならない**。社会変革につながる学校協治は、GEを促進し、女性と女の子の地位を向上させるための行動もとる。

学校レベルの活動は、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシーの**要素2、4、5、6** に基づいている。これらの活動は、学校協治へ女性と女の子が積極的に参加し、学習環境において、また学習環境を通じてGEを促進することによって、エイジェンシーを高め（要素3）、多様性を認識し対応するための教師と学校管理者の能力を育成し（要素4）、否定的なジェンダー・ステレオタイプに積極的に挑戦し、学校協治への平等な参加と代表を実現することによって、女性と女の子の社会的地位を向上させ（要素5）、GEを促進し、表現できる環境としての学校を強化する（要素6）。

- ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチでは、男女の子どもや女性が、学校の統治機構やリーダーシップに積極的に参加し、会議に参加し、意思決定プロセスに有意義な影響を与えることを目指す。これは、メンバー数やリーダー的ポジションの枠を求める提言を行う、包摂的な参加と意思決定に関する研修を受ける、そして継続的な見守り支援を受けることによって達成できる。
- GTEの取り組みとして、ジェンダーの視点に立った計画立案と予算編成、学校改善プロジェクトの特定と優先化にジェンダーの視点をどのように取り入れるか、たとえば学校プログラムにおけるGBVやジェンダーに基づくステレオタイプと闘うための行動などについて、学校の統治機関に研修を行う。
- トランスフォーマティブである（社会変革につなげる）ためには、学校協治の説明責任も強化されるべきである。たとえば、SMCのユース代表がコミュニティの女性や男性の仲間と協議することを支援する定期的な協議メカニズムの確立などを通じて、女性や子どもが積極的に関与する透明性のあるコミュニティのフィードバック機能を公式につくるべきである。

学校環境

どのような活動か

多くの教育プログラムには、物理的環境や文化的環境など、学校環境を強化・改善するための取り組みが含まれている。こうした活動には、学校の管理職や指導者と協力して、教育者や生徒の行動規範を改善・確立すること、SMCのために教材や掲示 などのリソースを提供すること、演劇やスポーツなどの学校の課外行事を支援すること、教師や教育者と協力して、レジリエンス（回復力）や災害軽減戦略、教授法や保護など、さまざまなテーマに関する研修を実施することなどが含まれる。

SRGBV（学校に関連したジェンダーに基づく暴力）

多くの子ども、特に女の子、障害のある子ども、LGBTQI+と自認する子どもは、教育の中で身体的、心理的、性的な暴力、屈辱、その他の権利侵害などの否定的な教育体験をしている。これは、いじめ、体罰、教師や他の職員からの暴力や性的虐待、仲間同士の暴力やいじめなどである。それは、学校内でも、登下校中でも起こりうる。男の子は体罰の割合が高く、中途退学のきっかけになることが多いが、女の子は
性的虐待を受ける可能性が高い。(ユネスコのSRGBVも参照）。

トランスフォーマティブであるためには

こうした活動は最低限ジェンダーに配慮するのは当然だが、教育者の態度や行動だけでなく、あらゆる多様性を持つ女の子と男の子の経験をしっかりと分析することで、ジェンダー・トランスフォーマティブな活動にもなりうる。また、**考えられるすべての活動に存在するSRGBVを把握し対処すること**も、学校レベルでのジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みになる。

- 行動規範には、教育者、職員、生徒の行動が含まれ、SRGBV、いじめ、LGBTIQ+の包摂、体罰について説明し、盛り込むよう改訂する。行動規範の作成は参加型で行い、情報提供は必ず安全かつ内密に行なわれたうえで、あらゆる多様性を持つ生徒の視点を取り入れるようにする。
- ジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みを通して、GE、暴力やいじめに対する非寛容、ポジティブな男性性と女性のリーダーシップ（生徒でも大人でも、ジェンダーの典型ではない描き方をする）を促進する学校コミュニケーションやメッセージの発信ができるように支援する。このような機会は、学校や学習環境が再建されたり新設されたりしているEiEプログラムの文脈では、特に得やすいだろう。

プランが建設中の学校の教室棟のひとつ、モザンビーク中央部。

- 教師と教育者には、生徒の人生に大きな変革をもたらす力がある。体罰やジェンダー・ステレオタイプの強化（たとえば、STEM科目を男の子の方にすすめる）といった否定的な行動の軽減に加え、トランスフォーマティブ・プログラムでは、差別的なジェンダー規範を理解し、それに積極的に挑み、GEを明確に推進するよう教育者の支援を行う。さまざまな教科における意識とスキルレベルの強化・向上に向けた教員との協働は、関与の性質と省が関与する範囲に応じて、学校レベルでも国レベルでも行うことができる。たとえば、人道的な環境では、全国的に正式な教員実地研修を実施するMoEが機能していない場合が多く、こうした場合には、地域や学校の管理職と直接関わり、教授法やその他の研修を教員に提供することが必要となる。

学校インフラ

どのような活動か

学校の物理的なインフラと施設は、資金提供者にとって魅力的な投資対象であることが多く、教育部門で活動し、学校や教師、生徒と関わる組織にMoE（教育省）が求める必須条件である。学校インフラに関連する典型的な活動には、教室の増設、トイレ棟、レクリエーション空間の設置などがある。こうした活動には、ソーラーパネルの設置やインターネット接続設備の設置など、通信・電気インフラの整備も含まれる。

トランスフォーマティブであるためには

物理的なインフラそのものはジェンダー・トランスフォーマティブではないが、多くの場合ジェンダーに基づく障壁があるためにもっと社会変革につながる取り組みが行えない場合にも取り組める点で、トランスフォーマティブ・プログラムにとって不可欠な要素である。たとえば、十分な教室の広さと照明があれば、スペースと資源を生かして教師はより包摂的で対応力のある教え方で授業をすることができる。あらゆる学習者のニーズに対応するためのインフラ整備は、質の高い包摂的な教育に向けた包括的な取り組みの重要な要素である。

上記の包括的な取り組みには以下のものが含まれる。

- ジェンダーの視点に立った学校のWASHインフラ（男女別、明るく、施錠可能で安全なトイレ、適切なMHM設備など）の建設
- 安全面の改善、たとえば校庭のフェンス、太陽光発電による照明など
- 利便性の向上、例えば、スロープの設置やドア幅の拡大、移動可能な机など、障害のある生徒が利用しやすい家具や教材の提供など

教育におけるSOGIESC[6]に基づく排除とはどのようなものか

LGBTIQ+の思春期の若者は、さまざまなレベルで教育を開始、継続、修了できない可能性がある。これは、他の生徒や教師、学校当局による同性愛嫌悪やトランスフォビアいじめなど、有害な社会規範や法的規制のない慣習による場合が考えられる。また、学校の制服に関する規則や男女別の衛生施設など、彼らのアイデンティティに暗に制限が加えられている場合もある。LGBTIQ+の思春期の若者は、性教育が異性規範的なアプローチ（男女間の関係のみを取り上げる）をとり、包括的でない（多様な性的指向やジェンダー・アイデンティティを取り上げない）場合、特に排除されていると感じるかもしれない。教育に関連した排除の影響として、LGBTIQ+の思春期の若者は自尊心が低く、学業に自信が持てず、成績が上がらず、雇用など将来の選択肢に影響が及ぶこともある。その影響は、レズビアン、女性バイセクシュアル、トランスのユース女性など、あらゆる多様性の中でジェンダー不平等や早すぎる結婚のような有害な規範の影響も受けている女の子には特に厳しいものだと言える。

SOGIESCが意味するものについての詳細な情報や、Planting Equality Module *Adolescents in all their Diversity*へのアクセスは、Planet を参照。

6 性的指向、性自認および性表現、性の特徴

中学校に通う女の子のための安全な寮、タンザニア。

緊急時の教育

学校レベル

EiEプログラムにおける学校レベルの活動は、対象コミュニティの学校の機能性、物理的な状態、人的資源の能力によって大きく左右される。学校とその周辺の治安リスク、交通システムの機能不全、安全に通学できないなど、その他の不安材料があることも、学校の教育サービスの在り方や能力に影響を与えるだけでなく、子どもが学校に通えるか、そして通いたいと思うかどうか、さらに、親が子どもを学校に通わせられるか、また通わせたいと思うかどうかに影響する場合がある。多くの状況において、EiEのプログラムは、損なわれた教育サービスを再建あるいは、適切かつ必要な場合は新たな教育サービスを確立しつつ、避難民の子どもの流入に対応するために既存のサービスの吸収能力を拡大するだけで苦戦を強いられることになるため、特に緊急事態や災害の初期段階においては、やむを得ず応急措置的な内容になってしまう場合が多い。

軍隊や民兵による学校の使用や施設の破壊など、紛争や危機に直結する学校レベルの障壁、あるいは教師不足のような紛争に直結してはいないが紛争によって深刻化した障壁に対処するプログラムにおいて、EiEは、ジェンダーの視点に立って行う必要がある。たとえば、ジェンダーの視点に立ち、MHMをサポートする学校や衛生施設を再建する、あるいは代替教育の中で包括的性教育を行うという形で、「より良い再建」を行うことも考えられる。しかし、それはジェンダー・トランスフォーマティブな活動と言えるだろうか。

トランスフォーマティブ・プログラムの実施にはさまざまな課題があると言えるが、システムの確立や再建がまたとない機会になることもある。学校レベルでは、危機後の復興において、教育サービスがどのように管理され、コミュニティがどのように責任を負うのか、根本的に転換を図ることができる。たとえば、女の子も男の子もあらゆる多様性を代表する者がメンバーとなり、リーダーシップをとって、コミュニティの保護を担う者と緊密に連携するといった形だ。SRGBVに対処するための戦略に保護的アプローチとともにジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れ、リスク軽減や紹介と共にGBVを伝えてその根本原因であるジェンダー不平等に明確に取り組むことができる。適切なGEIA(ジェンダー平等と包摂の分析）から情報を得ていれば、学校レベルでのEiE活動は常にジェンダーの視点に立ったものになるはずだが、そこにはジェンダー平等達成に向けた変化につながる具体的な機会をつかむ可能性もある。

2.4 国レベル

社会変革につながる合法的で持続可能な教育を目指す場合、教育プログラムは、国レベルで中央計画や管理業務を行っているMoEと直接協力し、MoEを通じて行わなければならない。プログラムが特定の地域や小地域を特に対象としている場合でも、活動は、全国で施行されている教育政策や計画、行政や教員、全国を対象とするカリキュラムや基準に沿ったものでなければならない。そのため、ここで紹介する活動の多くは地方レベルで実施されるが、国レベルの教育システムに合わせて、国レベルの手段を通じて展開されるのが理想的である。.

したがって、GTEプログラムは、すべての女の子と男の子が包摂的で質の高い教育を公平に受け、修了できることを目指す国の政策枠組みを基盤として取り組むことになる。GEを十分に支えられる立法、予算、政策の枠組みを持つことが非常に重要であり、大きな規模で行う上で役立つ。しかし、GTEプログラムでは、システムやツールがジェンダーを考慮しジェンダーの視点に立ったものであることを保証するだけにとどまらず、教員研修や採用、カリキュラム、教材にもGEと包摂を目指す。

国レベルでの取り組みを立案する際の課題のひとつは、こうした分野での変化を達成するための機会の多くが、MoEのタイミングと優先順位に左右されるということである。したがって、MoEの活動とタイミングの分析を行うプロジェクトの立ち上げ時に、部門ネットワークや組織のメンバー、地元の市民社会、教育分野の提言活動家によって既に進められている活動や作業を基盤として連携するなど、機会を捉えて最大限に活用するために効果的な戦略を立てることが重要である。

政策の影響力とセクター計画

どのような活動か

政策への働きかけとセクター計画を目的としたプログラムとアドボカシー活動には、全国教育連合、地方教育グループ、教育組織との協力やそれらを通じた教育省への直接的な働きかけ、政府の立法機関への働きかけが含まれる。こうした活動としては、計画手順の改善、エビデンスに基づく意思決定、ジェンダーの視点に立った教育政策の策定、保健省など他省庁との協力の促進などのサポートがある。

トランスフォーマティブであるためには

政策と働きかけを社会変革につながるものにするには、国家レベルでの対話をすすめ、国の政策が教育における、また教育を通したGEの推進を真に目指すものであるかを検証する必要がある。プラン・インターナショナルが活動するほとんどの文脈では、これは女の子が少なくとも1年間の就学前教育を含む12年間の基礎教育を受け、修了できるようにすることに焦点が置かれているかどうかを意味する。これは、通常の発達状況にある女の子だけでなく、緊急事態下の女の子、若い母親である女の子、障害のある女の子、孤児の女の子も対象となる。そのためには、政府や教育関係者への働きかけを通して、障害のある子どもはもちろん、妊娠中や子どもを持つ、あるいは既婚の女の子の教育を妨げる法的障壁に取り組み、彼らが教育システムの中で学び、学びを再開できるよう支援するための政策と予算を策定する必要がある。

国レベルでの活動は、そのままプラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムとアドボカシーの**要素5と6** に基づいている。これらの活動は、女の子や女性を差別し、社会における従属的な立場を強化するような政策と計画に取り組み、是正するものである（要素5）。また、その務めを果たすべき者がGEを可能にするだけでなく、より平等なジェンダー関係を積極的に促進する政策環境と教育システムを作り出せるよう、各省庁と協力し、また各省庁を越えて活動する（要素6）。

学校で授業をするMamie、シエラレオネ。

- UNGEIとGPEが作成した手引きを用いて、GRESP（ジェンダーの視点に立った教育セクター計画）の策定を支援する。ESP（教育セクター計画）は、(a)ジェンダー分析による情報に基づき、(b)適切な財源、制度の能力、政治的意志に支えられ、(c)ジェンダーの専門知識と知識の共有により促進され、(d)ジェンダーに配慮したM&Eにより強化され、(e)ジェンダー主流化を促進することで、社会変革につながる影響を与えることができる。
- ジェンダーの視点に立った教育関連の政策（学費廃止、官僚機構におけるジェンダー平等）の導入や、ジェンダーに関わる逆行的政策（妊娠中の生徒の中途退学）の廃止を支援する政策提言活動。社会変革につながる政策提言活動は、教育セクターで活動する他の市民社会の担い手と協力・協働して行い、この活動が社会変革につながる可能性を高め、より包摂的なものになるよう支援する。
- 政策立案と計画のためのジェンダーに配慮したデータの収集と利用について、省と教育セクターの計画担当者/職員を支援する。データとエビデンスに基づいた意思決定を行うためにさまざまなレベルの省職員と協力して能力を高めることは、教育システムの女子教育に対する見方と評価を変えることができるという点で、社会変革につながる可能性があり、また、女の子のニーズに対応するために下される意思決定の性質や国家予算の配分方法をも変えることができる。これには、データの収集と管理、ジェンダー、年齢、民族、障害など排除の要因別の分類に関する研修、適切に細分化された既存の利用可能なデータの特定、分析、活用、計画策定プロセスにおける包摂的データの活用強化などが当てはまる。

質の高い教師陣

どのような活動か

十分な研修と支援、報酬を受けている教職員は教育システムを支える土台であり、ほとんどの教育プログラムには、教育者の採用、研修、監督、支援に関わる業務が含まれている。こうした領域での活動には、教員の給与の補償、採用の指針と支援、事前研修または実地研修の企画・実施の支援、直接的な見守り支援、支援に関する教育行政担当者の研修などが含まれる。

ユースクラブのミーティングに参加する女の子、ガツィボ地区、ルワンダ。

事例研究

ジェンダーの視点に立った教授法に関する教員養成：モザンビークと南スーダン

ジェンダーの視点に立った教授法に関する教員養成：モザンビークと南スーダンプラン・インターナショナル・カナダが2016年に考案したジェンダーの視点に立った教授法に関する教員研修（GRPTT）は、子どもを中心に置いてGEを実践する教授法を10日間で学ぶ教員研修だ。教師は、自身のジェンダーの経験を振り返り、GEに対する態度を変えるよう促される。これによって、女の子と男の子が学校に通い、修了する際に直面する固有の課題と障壁を認識し、女の子と男の子の両方に学校で学び成長する平等な機会を提供し、教室でGEを促進する、子どもにやさしい教授法を用いて対応する能力を養う。

GRPTTは、ジェンダーの視点に立った教育の土台となっている概念を学ぶだけでなく、教室でGEを推進するための実践的なスキルを身に着ける。

たとえば、教師は日常の評価スキルを身につける一方で、どのようにジェンダーバイアスを回避して、参加を妨げる障壁に取り組むべきかを探る。このように並行して学ぶことで、教師は日々の教育実践や活動の中でどのようにジェンダーに配慮することができるか模索する機会を得ることができる。

Dubai Caresは、SRGBVと闘うために、南スーダン農村部とモザンビークでGRPTTの最初の試行を支援した。2016年7月に南スーダンで暴動が発生した際は、緊急事態という文脈でGRPTTに変更を加え、全体にわたって紛争下という状況を考慮した内容になった。

トランスフォーマティブであるためには

教師は、GTEに貢献する重要な資産であり、教室内外でGEを推進する上で最大の味方となりうる存在である。トランスフォーマティブ教育プログラムは、教育システムの中で女性教師がロールモデルや代表者になっていけるよう支援するとともに、教室や学校内ですべての教師がGEのための変革の担い手となる能力を高める。教員研修と見守りに関連する活動は、省庁の制度と行政の中で制度化されるよう努める必要がある。

- 女性教師の採用と研修を促進・支援する。あらゆる教育レベルにおける女性教師と管理職は、すべての子ども、特に女の子の学習を促進し、ジェンダーの役割に関するステレオタイプと闘うために不可欠である。女性教師が職業に自信を持てるようにし、キャリアアップをして指導的立場に就くことができるようにしなくてはならない。教育システムにおける重要なロールモデルであり代表者ではあるが、女性教師がいれば自動的にGEと女の子の権利が推進されるわけではない。
- ジェンダーの視点に立った、包摂的で、子どもを中心とした教育実践について、教師を対象とした事前あるいは実地研修を支援する。教師は GTE に貢献する主要な要素であり、教室内外でGEを推進する最大の味方である。いかなるジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムでも、要となるのは教育者のやる気と訓練である。教師が社会変革の担い手となるためには、GEに関する研修を受け、教育実践においてGEを積極的に推進する方法を学ぶ必要がある。
- ジェンダーの視点に立った、包摂的で子どもを中心に置いた教育実践について、教師を見守り支援する地域/地区の教育行政担当者の能力を養成する。

教育・学習資源

どのような活動か

教育プログラムでは、ポスターや教科書などの教育・学習教材の制作や配布を支援することが多く、教材の内容やデザイン、カリキュラムの範囲や内容について検討、改訂、意見を言う機会が与えられることもある。機会やニーズに応じて、教育・学習教材を支援する活動は、学校レベルまたは国レベルで行うことができるが、国のMoEを通じて全国のカリキュラムや内容に関与することで、もっとも影響力のある持続可能な変化をもたらすことができる。

トランスフォーマティブであるためには

多くの教育・学習リソースを単にジェンダーを意識したもの、あるいはジェンダーの視点に立ったレベル（ジェンダーによる差別やステレオタイプの永続化を避け、多様な学習者の個々のニーズに応えるという意味）にするだけでも、すべきことはたくさんあるが、社会変革につながるチャンスもある。社会変革につながる教育・学習資源には、既存のジェンダーに基づく力学にすすんで疑問を投げかけ、それに挑戦し、平等な意思決定、参加、代表を促進する内容が含まれる。

- 包括的性教育では同意と暴力の問題を扱い、有害な社会規範や人間関係の力学の変化を積極的に進めているが、そうした包括的性教育をカリキュラムに取り入れ、ジェンダー・トランスフォーマティブな内容になるよう教育省と協力して、見直し/改定を支援する。
- ジェンダー・ステレオタイプ的役割の促進や、ジェンダーに当てはまらない生徒に対する差別を避けるだけでなく、従来から疎外され、抑圧されてきた生徒（女の子、LGBTIQ+、民族・宗教・言語的マイノリティ）のエンパワーメントとエイジェンシーを積極的に促進するような教材の開発を奨励・支援する。

チョークとスレートを使って文字を練習するRoukietou、12歳、ブルキナファソ。

代替教育の提供

どのような活動か

基礎教育の代替的な提供には、供給側の制限、たとえば紛争や治安の悪さによる休校、あるいは生徒や家族の社会的・経済的な制約、たとえば季節労働によって定期的に出席できない、といった障壁への対応策として大きな意味がある。こうした活動は、不就学の子どもや中途退学の恐れのある子どもたちが柔軟に利用できるよう、代替的な学習方法やプログラムを支援し、促進している。これには、学校外で提供される加速学習や代替学習プログラム、修正して学校で行うプログラム、遠隔学習の支援、またはさまざまな代替手段の組み合わせが含まれる。可能な限り、こうしたプログラムは、国の基準に沿ったカリキュラムを使用した認定プログラムであることが求められ、当然ながら教育を担当する関連省庁の支援・承認が必要となる。

トランスフォーマティブであるためには

代替教育の提供は、教育を妨げるジェンダーに基づく障壁を克服し、排除された女の子が以前は利用できなかった資源を利用できるように特化した設計ができるという点では非常に対応力の高いものだが、それ自体で社会変革につながるものではない。たとえば、差別的な政策によって妊娠中や既婚の女の子が定期的に学校に通うことができない場合、代替的な提供プログラムは、システムの中で疎外されてきた不就学の女の子に教育資源へのアクセスを提供することはできる。しかし、公式教育にその可能性があるのと同じように、代替教育にも社会変革につながる可能性はある。それは、GEを促進し、有害なジェンダー規範に積極的に挑戦する教育的アプローチとカリキュラムを通した変革である。

- 代替的な教育システムによるプログラムには、公式の教育システムを基盤とする活動にはない柔軟性がある程度あることが多い。生徒がその成果を認められるように、カリキュラムが国の基準に沿っていることが重要である一方で、たとえば、従来はなかった進路の可能性を広げたり、GBVについて議論したり、包括的性教育を取り入れることで、代替的な教育方法で使用されるカリキュラムにジェンダー・トランスフォーマティブな内容を盛り込む機会をつくることができる。
- こうしたプログラムが、政府の研修を受けた教育の専門家によって提供されるにせよ、緊急事態や危機的状況においてしばしば見られるように、コミュニティのボランティアによって提供されるにせよ、研修プログラムが実施されるだけでなく、プロジェクトのスタッフまたは政府職員（あるいはその両方）によって見守り支援も行われる。教育を実践する中でGEを積極的に推進する方法についての研修が行われれば、教育に携わる者が社会変革の担い手となる可能性がある。

事例研究

MISOSA とOHSPを通じて、正規の教育から離れた思春期の若者とユース成人を支援する

Plan International Canada's 'Good Practices in RAISE'より引用

RAISEプロジェクトは、Dubai Caresの資金援助を受けて、プラン・インターナショナル・フィリピンとプラン・インターナショナル・カナダが2015年～2019年にフィリピンで実施したものである。ジェンダーの視点に立った設計の一環として、RAISEはMISOSAとOHSPと呼ばれる2つの代替的な教育提供方法を実施した。どちらのプログラムも、季節的要因で欠席する者、特に紛争・災害地域に住み、身体障害、就労、弟妹の世話や家事の必要性、家から学校までの距離、妊娠、早すぎる結婚など、さまざまな理由で正規の学校や授業に出席できない者が利用しやすい教育の機会となった。

MISOSAでは、学校を休んだ日・週・期間に学習する内容を含むモジュールの自習用教材を使用するため、4年生～6年生までの学習者が自分の力で文章を読む力が必要になる。OHSPでは、通信教育と自習用教材を使用し、学習者は自分のペースで学習し、必要なときだけ教師や他の対応できる人に相談する。学習者は、生徒学習計画を通して、自身の学習を計画・管理する。生徒は、OHSP受講期間中、いつでも通常のクラスに参加することができる。OHSPにはこうした柔軟性があるため、女の子と男の子、特に早すぎる結婚や妊娠、家事や育児、家計を補うための仕事などで学校を中途退学した女の子の入学/復学がしやすくなる。

トタン屋根の小屋で宿題をこなすプリー、8歳、カンボジア

この教育改革は、疎外された子ども、特に女の子が高校に入学し、修了することを阻む複数の障壁を考慮して設計された。柔軟性を持たせることで、学習者は自分のペースと使える時間の中で学ぶという主体性を与えられる。この設計の中核になっているのが、エンパワーメントという要素である。つまり、女の子はプログラムそのものの結果としてだけでなく、このプログラムに参加することでエンパワーメントされるのである。彼女たちが教育を継続する後押しになる一方で、このプロジェクトでは女の子を阻害する根本原因に取り組む活動も行い、女子教育の価値、早すぎる妊娠で受けるスティグマ（恥辱）、早すぎる結婚の防止をめぐる社会規範の転換に取り組んでいる。

Hayat, 14歳、の夢は数学の教師になってシリアに帰ることだ

緊急時の教育

国レベル

危機的状況は、教育政策と実践の中でGEを強化する機会にすることができる。危機においては、各国の関係者は協力して、人道的対応計画やセクター別計画を策定するが、こうした対応計画はジェンダーの視点に立つことが可能であり、またそうあるべきであり、可能であれば社会変革に向けた進展を後押しするように努めるべきである。国家的な提言活動や政策改革が刺激されて、差し迫った対応の中でGEを促進する機会が増えるだけでなく、「相互に関係する」空間の中で政府や開発関係者との協働を通じて、中長期的な制度改革にジェンダーの視点を埋め込むことができる。サービスの提供はしばしば中断される。しかし、それに対応し適応できるメカニズムが求められるため、これがイノベーションと規範を転換する機会を生み出す。緊急事態下の教育への対応は、上述した活動にある社会変革につながる性質を基盤として状況に応じて行うことができる。

多くの危機的状況では、わずかな訓練しか受けていないボランティアが授業を行うことになる。基本的な訓練の一環として、ジェンダーの視点に立った教授法と包摂の訓練を教師に行い、生徒にとって前向きで有益な学習経験を提供できるよう見守り支援を行うことが重要である。危機的な状況において、教育の中断、通学距離の増加、治安の悪化をもたらす移住は、女の子や男の子の安全な通学を妨げる可能性がある。そのような状況下では、遠隔教育、コミュニティが運営する教育、補習授業や編入準備授業の提供など、代替的な教育の提供の方が望ましい場合もある。

こうした形での代替教育の提供は、時間の融通が利く方法で利用でき学習成果が達成できるという両面で、特に女の子のエンパワーメントにつながる可能性がある。

紛争下や危機の中で、機能している地方自治体、MoEの職員、および/または組織のワーキンググループと直接協力しながら計画・対応することは、有害な社会規範に取り組み、教師の訓練を通して女性教師/ボランティアの能力、自信、エイジェンシーを高め、安全で包摂的な環境を育み、ジェンダーの視点に立った教育サービスを代替的に提供することにつながり、ジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みになる可能性がある。共同ジェンダー分析、ジェンダー戦略計画、パートナーのためのジェンダー能力開発、ジェンダーの視点に立ったプログラム、そしてモニタリングのためにWASHや保護など他のセクター、組織、ワーキンググループと協力することは、連携したアプローチをとる上で重要である。

2.5 国際レベル

グローバル化がすすむ世界では、地球規模のムーブメントや組織、ステークホルダーの潜在的な影響力を過小評価するべきではない。国際条約や協定を通じてであろうと、資金の流れや政府開発援助を通じてであろうと、社会運動や非公式な提言活動を通じてであろうと、世界レベルや地域レベルで確立された基準とシステムには、国家レベル、コミュニティレベル、そして最終的には女性と女の子の個々の生活にまで及ぶ影響力がある。

教育セクターでは、GPEやEducation Cannot Waitのような強力な多国間資金提供組織が、各国政府や市民社会の教育セクター関係者が利用できる資源や方向性に大きな影響を及ぼしている。ユニセフやINEEのような組織は、業界の最善策として世界中の教育関係者によって使用される世界基準とツールを開発している。そして当然ながら、CRCやSDGsのような国際的な法的規範や開発目標の策定とモニタリングは、政府や市民社会が何に注力するかに大きく影響し、サービスの提供や権利の保護について、活動の担い手たちに説明責任を果たさせる力を持っている。*この国際的なレベルでの取り組みが、GEと包摂の原則をどの程度反映し、促進するかは、女の子と女性のための教育政策、プログラム、サービス提供のあり方に大きな影響を与える可能性がある。*

プラン・インターナショナルがプログラムとアドボカシーの活動に取り入れるアプローチをしっかりと踏まえて世界及び地域レベルで取り組むことで、教育におけるGEに焦点を当てて現在行われている取り組みと連携がすすみ、女性と女の子、そしてすべての子どもたちの教育を受ける権利について、より高い基準とさらなる注力を求めるアドボカシー活動が行われるようになれば、ジェンダー平等と包摂につながる社会変革に向けた進展を後押しすることができる。

世界的・地域的な働きかけとアドボカシー

どのような活動か

プラン・インターナショナルは、GEと包摂に焦点を置いた子どものためのプログラムを世界規模で行う組織として、世界及び地域レベルで教育セクターの基準、ツール、資金の流れの確立を働きかけ、また、既存の世界基準を利用して女子教育のための世界的な提言活動を調整する重要な役割を果たしている。

こうした活動は、必然的にプラン・インターナショナルのグローバル・ハブが主導・調整し、各国事務所からの支援を受けて行われている。他のレベルの活動とは異なり、これらの活動は長期的な目標を達成するために行われる場合が多く、特定のプログラムやプロジェクトに関連せず機会が生じる中でその対応を通して行われる。

トランスフォーマティブであるためには

- 世界的な資金提供コミュニティと協働して、政府と非政府組織・団体が、ジェンダーの視点に立った包摂的な活動を取り入れる動機になる基準をつくる。
- たとえば、カリキュラムの最低基準として包括的性教育を求め、教育者を対象としたGE研修の必要性を認め、推進することによって、多国間機関が教育において、また教育を通じて、ジェンダー平等と包摂を促進する国際的な基準と目標を取り入れる支援と提言活動を行う。
- 説明責任メカニズムに焦点を置いた市民社会ネットワークや連合との議論や関わり合いの中で、女の子の権利、包摂、GEに対するプランの重点的な取り組みをさらにすすめる。これには、国連CRC、CEDAW、北京行動綱領勧告、CRPD、SDGのモニタリングに関連するモニタリング・報告プロセスが含まれる。
- 資源の共有の強化、地域基準の確立、地域の提言能力の強化に向け、地域のNGOまたは政府間組織を支援する。一例としては、地域教育に関する提言活動家や女性・女の子の権利のために活動する市民社会団体に対する技術的支援や資金援助がある。
- たとえば、地域研修やワークショップを通じて、カリキュラム開発や共通の取り組みに関する地域の協力を後押しするなど、対応力のある包摂的な教育制度や政策を支援するために、各国の省庁やその他の政府機関の間で共有し、学習する機会を設ける。

事例研究

GRESP（ジェンダーの視点に立った教育セクター計画）

the GRESP Guidance, and: https://womendeliver.org/2019/planning-for-genderequality-in-and-through-education/; http://www.ungei.org/news/index_6530.htmlより引用

GPEとUNGEIは、2017年に*ジェンダーの視点に立った教育セクター計画立案のための手引き*を策定した。この手引きは、教育セクターがセクター計画のすべての段階（システム分析、カリキュラム開発、予算編成を含む）で、女性と女の子のニーズに対応できるよう、国の教育システムを変革する上で必要な情報とツールを示している

これは、2017～18年にGRESPの実践方法についてアジアとアフリカで開催された一連の地域ワークショップで行われた提言をまとめたもので、手引き起草中の2017年にプラン・インターナショナル・タンザニアとプラン・インターナショナル・カナダは意見を提供したのに加え、一連の地域ワークショップの初回を企画し、その共同進行役を務めた。このワークショップには、東部・南部アフリカの6カ国から、教育省、ジェンダー省、保健省の役人、市民社会と教員組織の代表者が参加した。参加者は、計画の一つ一つの段階で女性と女の子の具体的なニーズに対応できるように国の制度を変革するという観点で、GRESPをどのように適用し、国の制度でそれらのニーズにどう対応するのかを学んだ。

この共同ワークショップでは、非常に前向きな成果が得られた。たとえば、ウガンダでは、MoE内の政策チームとジェンダーチームが緊密に協力し、教育におけるジェンダー暴力に取り組み、就学中の意図しない妊娠と10代の妊娠に関する手引きを作成している。また、国の教員政策や教育環境政策にジェンダー配慮した視点を導入することにも取り組んでいる。ザンビアでは、教育計画の策定に向けて教育省とジェンダー省が緊密に協力することに合意した。

Samira、14歳、学校で学ぶ、中央州、ザンビア。

自分の支えになっている太陽のシンボルの横に立つ女の子リーダー、マンダレー地方、ミャンマー。

国際レベル

緊急時の教育では、効果的な緊急計画・対応を行うために地域的・世界的な連携と協力の下で取り組む必要性が一層高まる。緊急事態で教育システムが壊滅的な影響を受けると、危機下でもっとも弱い立場にある人々への複雑なサービス提供システムを支援、あるいは代替するために、複数の人道的プログラムが迅速に対応しているという状態になり得る。そこでは、危機の際に国際的な諮問機関が設定する優先順位によって、限られた資源をどのように振り分け、危機のどのような要素を認識・分析し、どのように成果を設定し達成するかを決定することができ、世界的な専門家や機関から提案された手引きが、即座に対応計画の設計に生かされる。グローバル教育組織やINEEのようなワーキンググループと協力しながら、プラン・インターナショナルは、ジェンダーの視点に立った基準や、教育におけるジェンダーに関連した中心課題を含む優先事項の策定を支援することができる。ECWのような主要EiE資金提供者に、特に女子教育に関連する教育プログラムと成果のジェンダー対応性に資金配分と資金説明責任を集中させるよう影響を与える可能性もある。危機の際には、地域レベルや世界レベルでの連携と協力が地元レベルや国レベルと同様に重要であり、組織レベルでプランの影響力を活用することで、ジェンダーの視点に立った人道的対応計画を確実に後押しすることに重点を置き続けることができる。

事例研究

COVID-19パンデミックが始まるとすぐに、プラン・インターナショナル職員はCOVID-19への対応の中で教育を優先するために、各国政府、人道支援国チーム、教育関係者、主要なステークホルダーと協力し、遠隔学習対策を導入する際に女の子が取り残されてはならないことを強調してきた。

プラン・インターナショナルは、ラテンアメリカのユネスコおよびUN Womenと協力して、ジェンダー、教育、COVID-19に焦点を当てた活動を行い、その結果、COVID-19対応に取り組んでいる政府と組織が女の子と思春期の若者が直面している課題を克服するための情報ツールが開発された。

3. ジェンダー・トランスフォーマティブ教育プログラムの進捗測定と評価

ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムには、*内部*と*外部*の両方に対する説明責任を保障するモニタリング・評価・学習のアプローチが必要だ。内部に対する説明責任とは、プラン・インターナショナルが、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの割合を増やすためにどの程度注力しているかをモニタリングするために使用するメカニズムを指す。**ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー**は、個々のプロジェクトと、それらがどの程度ジェンダー・トランスフォーマティブであるかを項目ごとに評価する世界共通のツールとして開発された。外部に対する説明責任とは、モニタリング・評価・学習、およびジェンダー・トランスフォーマティブの目標に向けた個々のプロジェクトの達成度を示すシステムのことである。外部説明責任システムは、（資金提供者や機関に対する）「上向きの」説明責任と（プロジェクトの対象になっているコミュニティに対する）「下向きの」説明責任を果たすべきである。

外部説明責任に対する一貫性のある枠組みとアプローチは、いくつかの理由で重要である。それは、国際的な最善策や関連するグローバル指標との整合性を確保することができ、プログラムや複数のプロジェクト全体に関する総合的な成果を評価する機会にすることができるからである。あらゆるセクターと同様、教育においてもジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムは、入学率や修了率、学習成果、出席率/退学率など、従来このセクターで用いられてきたグローバル指標を超えた内容が求められる。これらの指標は重要で、M&Eの枠組みに不可欠な要素だが、社会規範や態度に起きている社会変革に向けた進展や環境あるいは個人のエイジェンシーの向上を捉えるには不十分であり、また何よりも、ステークホルダーの中心である子どもの声と視点を捉えていない。

プラン・インターナショナルの**IQE M&E成果枠組み**は、セクター別指標を基礎とし、個人、家族、コミュニティ、学校、システムといった、上述の関連するすべてのレベルで起きている変化と活動の進捗を捉える包括的な手法となる。

プラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー

ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーは、プラン・インターナショナルのプログラムとアドボカシー活動がジェンダー・トランスフォーマティブで包摂的な変化にどの程度貢献しているかを把握する上で役立つツールだ。このマーカーは、プロジェクトがどの程度ジェンダー・トランスフォーマティブで包摂的であるかを示すもので、セクターに関係なくすべてのプロジェクトに適用できるように設計されている。

また、このマーカーは一つ一つのプロジェクトがジェンダー平等達成に向けた変化を後押しする可能性をできる限り高めるために、プロジェクトの設計段階で強化可能な分野を特定し、進捗を図るツールとなること目的としている。さまざまな段階でプロジェクトを振り返ることで、社会変革に向けた変化につながる正しい道を歩んでいるかどうかをチェックし、ジェンダー・トランスフォーマティブなプロジェクトの増加に向けて着実に進展しているかを追跡することができる。このマーカーは、事業開発チームにとって、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの中核的要素がプロジェクトやプログラムに確実に組み込まれていることを確認する上で、特に価値のあるツールである。この検証プロセスは、それ自体がプランとパートナースタッフの能力向上につながり、振り返りの共有と（ジェンダー・トランスフォーマティブ）アプローチに関する共通理解を促すことができる。

Back to School活動に参加する子ども、ナイジェリア。

すべての活動において説明責任を果たすため、資金供給源に関係なく、すべてのプロジェクトとプログラムにジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーを導入すべきである。

包摂的で質の高い教育のためのプランのM&E枠組み

M&E枠組みには、状況分析、影響、成果の各レベルで進捗を測るための指標と望まれる成果が示されている。

M&E枠組みには5つの中核的な構成要素があり、これはプログラムの水準を保証する上で重要な構成要素である。すなわち、教育と学習（成果5.1、指標5.1.2）の中核的な基礎構成要素と、4つの中核的な補完構成要素である：不就学の子ども（成果6.9、指標6.9.1）、学校協治（成果6.5、指標6.5.1）、学校環境（成果4.2、指標4.2.3）、カリキュラムと教材（成果6.3、指標6.3.1）。

すべての成果や指標と同様、これらはIQEのセオリー・オブ・チェンジに概説されている、変革を目指すべき3つの分野に関連している。

1. 不就学の子どもへの効果的な取り組み（特に女の子、障害のある子ども、危機的状況にある子どもに焦点をあてる）
2. 教育におけるジェンダー・トランスフォーマティブの内容、実践、行動
3. 安全で強靭な学習環境。

この枠組みは、開発と人道の両方の文脈で使うことができる。

付録1 の表は、枠組みの中で特定された分野ごとに望まれる成果と、社会変革に向けた進捗の測定を可能にするジェンダーに関連する要素の一部をリストアップしたものである。

付録1. GENDER-RELATED ELEMENTS ON THE M&E RESULTS FRAMEWORK FOR INCLUSIVE QUALITY EDUCATION (IQE)

1. Girls and boys, adolescents, and young people in all their diversity develop understanding and actively engage in their own education and in improving their learning environment	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O1.1 CAY engage in relevant learning opportunities	• CAY understand their universal right to education regardless of sex or gender
O1.2. CAY understand and support gender equal, inclusive and non-violent behaviours	• CAY understand gender equality and inclusion as it relates to their rights, to barriers to education and discrimination • CAY recognize and respond to gender inequality and discrimination
O1.3 CAY actively engage in school governance mechanisms	• All CAY, regardless of sex and gender, have the agency to participate in school governance (agency = knowledge and capacity to act)
O1.4 CAY understand and engage in emergency preparedness planning	• All CAY, regardless of sex and gender, understand and can participate in gender responsive emergency preparedness planning and response

2. Parents and care givers equally support girls and boys to access and complete age-appropriate education in a safe and supportive environment	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O2.1 Parents / primary caregivers take a leading role in their children's education, including in emergencies	• Parents/primary caregivers understand the right of all CAY to education, recognize the gendered norms and barriers to education, and provide necessary support for CAY to access and complete education regardless of sex and gender
O2.2 Parents and caregivers engage in school management, governance, and other school activities	• Female and male parents and caregivers actively participate in school management/governance
O2.3 Parents and caregivers contribute to the prevention of, and response to, violence in and around schools	• Understanding gender-related risks of physical, sexual and emotional violence • Addressing gender-related discrimination that drives SRGBV

3. Communities and community leaders recognise, promote and support gender-responsive, inclusive, quality education for all children	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O3.1 Communities and community leaders and members support and promote education for CAY, in all their diversity	• Awareness of how gender norms and biases affect the access and education outcomes of girls and boys differently • Stakeholders challenge specific gender and social norms and practices – child marriage, early pregnancy and child labour - that prevent girls from enrolling and completing education, including taking legal action if appropriate
O3.2 Communities and community leaders, female and male, take action to improve the quality of education for all CAY in the community	• Understanding what gender responsive, inclusive and safe learning environments are • Actively working with schools to provide accessible and safe learning environments for all children, including alternative learning opportunities for out of school children
O3.3 Communities actively engage in and influence school governance and management	• Active and meaningful participation and leadership roles of women and girls in governance structures
O3.4 Communities and community leaders contribute to ensuring a non-violent and safe school environment	• Awareness of gendered elements of SRGBV • Functioning of reporting and referral systems for victims of violence • Safety and gender responsiveness of school facilities, including during emergencies

4. Service providers: School governance and management bodies manage schools effectively to ensure provision of quality education in a supportive and safe environment	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O4.1 School governance and management bodies manage the learning environment effectively, so all girls and boys within the catchment area can access and remain in school	• Data is collected an analyzed with appropriate disaggregation and analysis applied (gender/age/disability) • Supportive supervision is provided for teachers to employ gender responsive and inclusive pedagogical practices • Understanding of gender related barriers and outreach to address barriers including girls who are pregnant, young mothers
O4.2 School management and governance structures work with other key stakeholders to provide education in a protective, safe and secure environment	• Effectively working with key Ministries such as child welfare and gender equality • Cooperation to ensure basic and safe facilities, such as MHM for girls • Supportive and coordinated mechanisms to prevent, report and follow up on incidents of violence
O4.3 Schools engage with the community, and have participatory governance and accountability mechanisms in place	• Participation of both female and male community members, youth, girls and boys, with women and girls in leadership roles

5. Service providers: Teachers provide a positive, supportive and inclusive learning environment for girls and boys in all their diversity	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O5.1 Teachers facilitate an environment in which all CAY can achieve and enjoy their learning	• Teachers use learner-centred, gender-responsive and inclusive methodologies, that actively engage CAY in their learning

6. SERVICE PROVIDERS: NATIONAL, DISTRICT AND LOCAL EDUCATION AUTHORITIES Develop and implement legal frameworks, budgets, policies, programmes and essential services for inclusive quality education	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O6.1 Government policy-makers at central level establish national legal and policy frameworks, budgets and plans for inclusive, gender-responsive, quality education	• Policies and plans that promote gender equality, with gender-responsive and inclusive education services and practices • Strategies are in place to respond to the needs of girls and other vulnerable groups, including children and youth with disabilities, girls who are pregnant, young mothers, refugees and internally displaced children • Gender equality and inclusion are promoted through all aspects of teaching and learning • Recruitment of female teachers, also other groups who are under-represented within the profession
O6.2 Regional, district and local authorities implement education policies to ensure provision of inclusive, gender-responsive, quality education services	• Policies to ensure provision of inclusive, gender-responsive, quality education provision
O6.3 Regional, district and local authorities implement education policies to ensure that CAY are learning in a positive, safe and protective environment	• Conflict-sensitive and gender-responsive contingency and evacuation plans are in place
O6.4 Central Ministry of Education develops gender-responsive policies for out of school children, which are implemented by district and local authorities	• Legal and policy frameworks are developed and implemented to facilitate the entry of CAY who have never been enrolled, to facilitate the re-entry of CAY who have dropped out of school, and to ensure that girls who are pregnant and young mothers are not prevented from attending school • Accelerated learning programmes with equivalency to support girls and boys who have missed out on education

7. Civil Society Organisations have capacity and influence for improved policy and accountability	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O7.1 CSOs work together to influence for inclusive gender-responsive quality education	• Understanding of what comprises inclusive quality gender-responsive education • Collaboration and coordination between organisations and networks who work on education at different levels, as well as organisations supporting specific groups or issues - including disability, gender equality, girls' rights, ethnic minorities, refugees or IDPs • Curriculum development, learning materials and teaching methodologies which promote gender equality and children's rights and include wider life skills such as CSE, DRR/ resilience, climate change and peacebuilding, and develop critical thinking, problem solving and increased self-confidence
O7.2 CSOs work with education authorities and communities to promote participatory accountability mechanisms	

8. Media promotes the right to inclusive quality education for all children	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O8.1 The media challenges social norms and promotes positive messages to support inclusive quality education for all	• Provide messaging and visual images that supports access to quality education for all CAY including girls, CAY with disabilities, girls who are pregnant and young mothers, CAY from ethnic and vulnerable groups • Provide space for CAY, especially girls and representatives from other marginalised groups, to engage directly and voice their opinions on the challenges they face in education • Develop content that challenges negative stereotypes and norms about what subjects girls and boys can study and what they can achieve

9. Global institutions; organisations, institutions, donors and humanitarian actors enhance political and financial support for inclusive quality education	
Outcome and Results	**Gender-related elements of analysis**
O9.1 Global institutions strengthen political and financial support for inclusive and gender-responsive education for girls, in both development and emergency contexts	• Providing financial support to improve protection for adolescent girls, in emergency and conflict situations, as well as providing spaces for girls' collective action towards their own futures • Influencing to ensure that SRHR and CSE are included in the curriculum • Influencing the development and implementation of policies to support pregnant girls´ attendance at school and re-entry polices for mothers
O9.2 Global institutions strengthen the voices of CAY, particularly girls' voices, in accountability for education	• Giving children in all their diversity the space and opportunity to come together in national and international fora to voice their opinions, and to demand accountability and influence in relation to improving education

学校で学ぶ女の子、チンボラソ、エクアドル。

付録2. PHOTO GUIDE*

Mamie teaches students in classroom at school (Sierra Leone)

Plan International recently visited Sierra Leone to make a new virtual reality (VR) film called 'Mamie's Dream'. VR is a revolutionary new medium that creates a unique empathy between the viewer and the characters in a film – for just a few minutes we can step into Mamie's world and walk in her shoes.There is a shortage of female teachers in Sierra Leone, so Plan International is funding a teachers training programme for young women like Mamie. Mamie and her story stood out to us: an extraordinary story of someone who refused FGM, which led to a life of rejection and isolation.

Afriyana's temporary classroom in Central Sulawesi Province (Indonesia)

Months after a series of strong earthquakes struck Central Sulawesi Province in Indonesia, children's education was still being disrupted. For 31-year-old Afriyana who runs a free school for children from poor families, seeing the school she had set up just a year earlier disappear was devastating. Two months later, Afriyana's school was rebuilt and now has three classrooms with separate toilets for girls and boys, with hand washing facilities.

Roshni (5) a day at school in Uttar Pradesh (India)

Roshni (5) enjoys a day at school. Roshni is the daughter of Devkumari (21) who was a participant on a campaign to prevent female violence and foeticide when she was pregnant. For some women, physical or mental abuse can start while inside the womb, in infancy, childhood, adolescence, or during adulthood or later in life - it can occur at any time during their lifecycle.

Girls and boys are working together to help Girls Get Equal (El Salvador)

Our Champions of Change project is working to help alleviate gender inequality and violence in El Salvador. We are working with boys and men to examine and change sexist behaviors in their families and communities to support girls and champion their rights. At the same time, girls are provided with safe spaces, protection through peer networks and access to mentors, and leadership opportunities.

Teacher Nelly helps with the "Shaping entrepreneurs for the future" methodology (Peru)

Focus on financial education and life skills is especially needed for girls. At the beginning of the project, each group of students decide together what kind of business they would like to establish. They then elect a treasurer, secretary and president and set goals for responsible saving and spending, finally they define their budget and responsibilities. So far, this project has directly benefited more than 22,000 students in 23 primary and secondary schools in Lima.

Tort, aged 23, teaching English (Cambodia)

Tort was born with a birth defect and only has one arm. Her family are rice farmers. Tort, who hopes to become a secondary school teacher, works as a librarian at a primary school. After work she volunteers to teach English classes to children from the surrounding area. Tort knows that education is the key to a better life for children.

Loveness, aged 18, and Shakira, aged 17, (Malawi)

Both Shakira and Loveness attended initiation camps. For Shakira this was a positive experience: "We heard that you must be respectful of people who are older than you and that until you have passed your exams, school is the most important thing in your life. We also learned that a girl who has a child does not necessarily have to marry. She can go back to school."

Brenda is one of a group of adolescent girls taking part in a Champions of Change workshop (El Salvador).

During a week-long workshop, as part of the Champions of Change programme, Brenda and the other participants learnt about gender equality, girls' rights, decision-making and girls' leadership skills. They also took part in debates, to boost their confidence in public speaking and to learn how to communicate their thoughts and opinions and get their point of view across.

Cássia, 18, with her school graduation photo

18-year-old Cássia has been inspired by Plan International since she first became a sponsored child. After joining the Leaders of Change project, she learnt about the gender inequalities affect the lives of girls and boys and is determined to make a change. "My dream is to graduate in social work and become a focal point in my community. I want to change the history of our country. I believe that when we have responsible leaders, and young people and children see these leaders as an example, we will also have a better community and a better Brazil."

Laxmi, aged 8, with her mother. Laxmi has difficulty walking, so her mother helps her get to school by carrying her down the hill. (Nepal)

Before receiving an ankle brace from Plan International, Laxmi did not attend school, but now Laxmi is able to walk independently, and looks forward to attending school every day.

* All images © Plan International

Ana and her children at Plan International's child friendly space in Tumbes (Peru)

Venezuelan migrant, Ana, was motivated to leave her country to seek medical help for her daughter Paula who became deaf after she was unable to get medical treatment for her ear infection two years ago."Access to public health in Venezuela is a complex task, not only because of the shortage of medicines, but also because of the lack of doctors as most have emigrated." Ana explains. Now Ana is on her way to Chile to meet up with her husband, hoping to improve the quality of their lives. She has high hopes for her children's futures.

Girls take over their school in Asunción (Paraguay)

To mark the International Day of the Girl, more than a thousand girls in 68 countries are occupying spaces and places where they are rarely seen or heard. #GirlsTakeovers encourage girls to pursue their ambitions and challenge the discrimination that hold girls back. In Paraguay, a group of girls took over their school in Asunción. During their takeover took on the roles of School Director, Deputy-Director, Cycle Coordinator and Technical team members.

One of the school classroom buildings under construction (Mozambique)

Plan International is working with authorities and communities to rebuild schools that were wrecked by Cyclone Idai a year ago. At this school in Beira district, work is underway to rebuild the 14 classrooms which were damaged or destroyed. This is also an opportunity to give different opportunities and rol models for girls and boys.

Safe dormitory for girls attending secondary school (Tanzania)

Long journeys to school, responsibility for domestic chores at home and lack of light to do homework at night can interfere with girls' academic progress. In addition, girls face dangers on the way to school including harassment and fear of rape – concerns their parents share and which lead them to keep adolescent girls at home. At this school in Kibaha district, Plan International has built a dormitory for girls to help them stay in school and finish their education.

Mamie teaching in class at her school (Sierra Leone)

There is a shortage of female teachers in Sierra Leone, so Plan International is funding a teacher training programme for young women like Mamie. Mamie, who refused FGM, which led to a life of rejection and isolation, enjoys her teaching.

Girls take part in youth club meeting in Gatsibo district (Rwanda)

Plan International has set up youth clubs in schools across Rwanda, to teach young people the vital life skills they need, including information about their sexual health and reproductive rights.Funded by the Swedish International Development Cooperation Agency (SIDA), the project provides children with the opportunity to discuss the issues that concern them, talk about their feelings and support each. The young people are now passing on their knowledge to other students through a peer-education programme.

Roukietou, aged 12 (Burkina Faso)

Roukietou in class at an accelerated learning centre under the Primary School Access through Speed Schools (PASS+) project, after a two-month interruption due to COVID19.

Prey, 8, completes her homework in her corrugated iron hut (Cambodia)*

"I taught myself," says 8-year-old Prey*. Prey was left to live on her own when her 14-year-old big sister found work in a field far from their home a few weeks ago. With her parents both dead, her aunt who lives next door keeps an eye on her and gives her food, but her impovershed state prevents her from taking her in full-time. Food and water shortages have become increasingly common in Cambodia as the dry season becomes hotter and longer forcing many people to migrate to look for work. It's vulnerable children like Prey who suffer most - left behind as their relatives move away.

Hayat, 14, dreams of becoming a maths teacher and returning home to Syria (Jordan)*

Plan International supports refugee families in the refugee camp of Azraq and East Amman in Jordan. "We lived like prisoners in Aleppo, Syria. My mother wouldn't let me and my three brothers out, not even to go to school. I never saw my friends. We came here about a year ago. Although the circumstances are harsh, I feel safe in the camp. I have made friends, and it feels great to walk to school with them, do homework and play on our phones. I dream of becoming a maths teacher, because I love numbers. I also dream of returning to Syria when the war is over." Hayat*, 14.

Samira, 14, learning at school in Zambia's Central Province

Southern Africa is in the grip of a food crisis. The region has been designated a climate 'hotspot' by the Intergovernmental Panel on Climate Change and has experienced just one normal growing season in the last five years. Samira lives in Zambia's Central Province. Aged 14 and in Grade 9, she wants to be a nurse. But these days, Samira struggles to stay awake in class. Since the food crisis began, Samira's daily food intake has halved. Now she survives on just one meal per day. She last ate at 5pm yesterday and won't eat again until 5pm this afternoon.

Girl leader stands next to her sun ally symbol in Mandalay Region (Myanmar)

Myanmar's young leaders step up to help and protect one another during the pandemic, taking a stand against violence.Plan International Myanmar has launched a virtual youth-led education and protection campaign together with UNICEF. Youth leaders are drawing sun ally symbol near their homes to signify shining a light on incidents of violence and abuse that might otherwise go ignored. It will also let their peers and other community members know that they have an ally during these times.

Children take part in Back to School activity in Nigeria

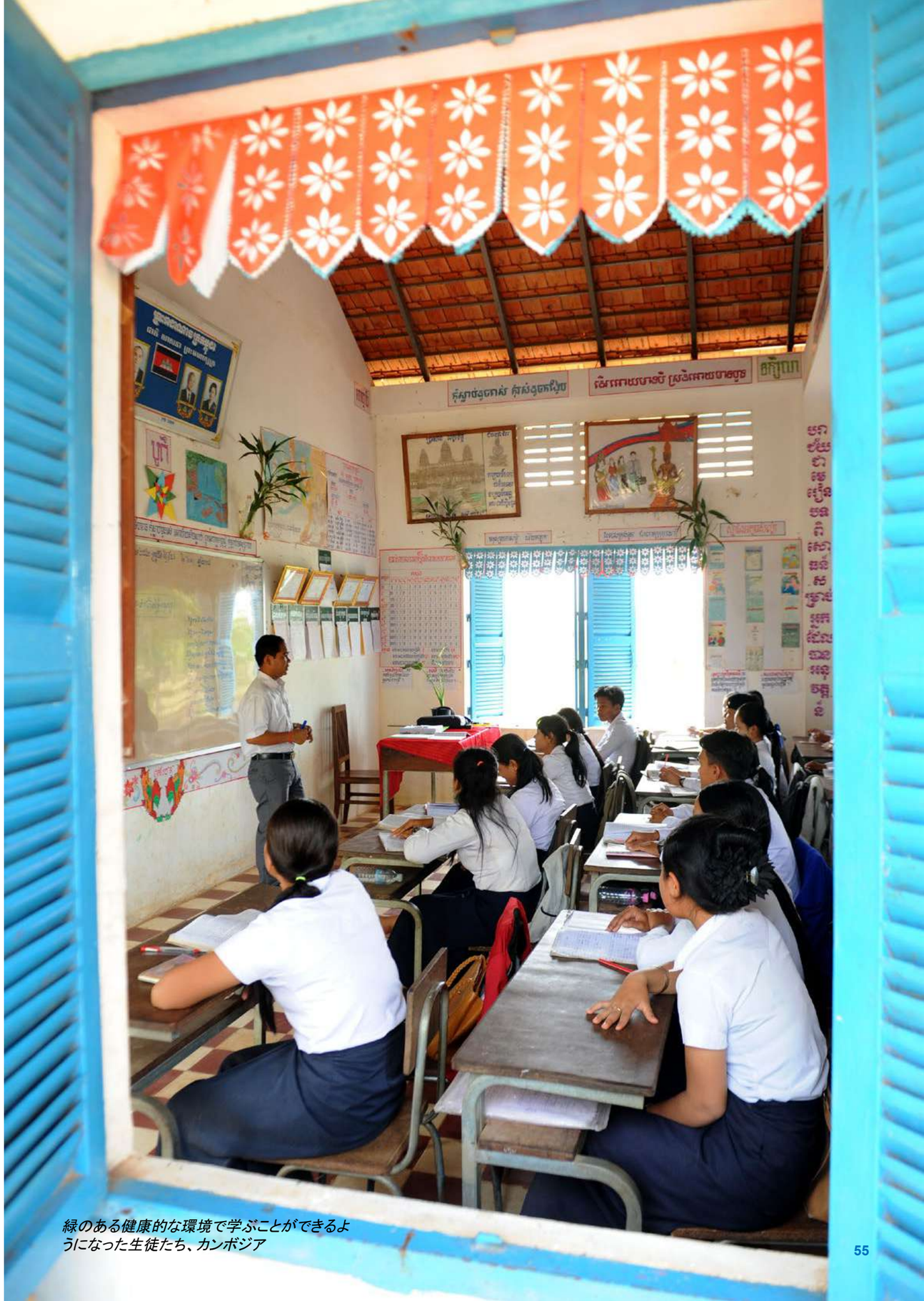
In an effort to transform power relation in favour of 100 million girls, Plan International Nigeria, with support from BMZ launched a Back to School campaign and supported 2000 most vulnerable children to get learning materials and 1500 girls provided with menstrual hygiene kits in seven of the most deprived communities of Askira and Michika LGA of Adamawa and Borno states. The campaign provided learning opportunities and enhanced school retention for children currently not attending school due to insurgent attack in northeast Nigeria.

Girl learning at school in Chimborazo (Ecuador)

In Ecuador, more than a quarter of young people don't go to secondary school, most often girls who miss out on an education because of domestic work. Plan International believes that education isn't just the right of every child - it can help them to escape poverty, access opportunities and enjoy an active role in their community. We are helping children in Ecuador access education, by awarding scholarships to students who would otherwise miss out on school because their family could not afford to send them.

Students are now able to learn in a healthy green environment (Cambodia)

In 1975, the Khmer Rouge guerrillas took the power in Cambodia and established a terror regime that killed two million people. The social and economic consequences of this period continue to have an impact today.Hong Engkeang, 51 years old, was himself a student in the Srei Snam District, the former war region at the time of the civil war. Today he is director of 28 Makara High School. He has transformed the school from a desolate place without trees into a green learning oasis for his students.



緑のある健康的な環境で学ぶことができるようになった生徒たち、カンボジア

Plan International Headquarters
Dukes Court, Block A, Duke Street, Woking, Surrey GU21 5BH
United Kingdom
Tel: (+44)1483 755 155
To learn more about our actions for children, visit www.plan-international.org